

【巻頭エッセイ】

誠実な言葉を取り戻すために	野矢茂樹	2
素晴らしい言葉との出会いをもとめて	国谷裕子	4
目を養う	吉岡乾	6
流れる川のように	佐藤多佳子	8

特集：国語新時代を拓く

現代の国語

「現代の国語」編集委員メッセージ	12
これならできる！「話すこと・聞くこと」の授業	幸田国広 14
多彩な活動で「書くこと」の価値を実感する	島田康行 16
新たな「読むこと」へのチャレンジ	山下直 18
楽しくトライ！「実用的な文章」の授業	初谷和行 20

言語文化

「言語文化」編集委員メッセージ	22
「言語文化」教科書の「窓」と「風」	藤森裕治 24
国と時代を超えて「言語文化」を受け継ぐ	大倉浩 29
先人の英知を現代に活かす	西一夫 31
——漢文学習の新たな視点——	

新教材のご紹介

『現代の国語』	白紙、「安くておいしい国」の限界、 「個人」から「分人」へ、作業ロボットの悲劇	34
『新編 現代の国語』	コミュニケーションは技術だ、人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いか、 商品と贈り物の違い、どこまでかしこもプラスチック！	36
『言語文化』	文字の深秘、ゼイナブの指、 橋のたもとの老人、サーカス／Circus	38
『新編 言語文化』	言葉の森を育てよう、ほどほどのデザイン、 ことばは光、形	40

令和4年度用 大修館書店「現代の国語」「言語文化」のご案内 ……中面カラーページ

●連載

〈新連載〉

いま、高校生に読んでほしい本…あさのあつこ『ハリネズミは月を見上げる』	内田 剛	33
ことばでつながる やまとうた②	ピーター・J・マクミラン、奥村準子	46
詩の教室へようこそ②	おせ、もっと、おせ。	和合亮一 50
青山あり！中国祠堂紀行④	印山越国王陵	平井 徹 54
コトバのひきだし⑦	「逆切れ」の理由はとんだ「逆恨み」	関根健一 56
国語教師のための 古典文法指導講座⑦	「サ変」も「ラ変」も変じゃない！	大倉 浩 58
——紫式部にファンレターを書こう④		

●コーナー

ICTあつと国語教育 …「一人一台端末時代」へ向けて	岡山県立林野高等学校国語科(山田雅之)	42
えつらん室	明鏡国語辞典 第三版／ことばをめぐる17の視点 国際バカロレア教員になるために／実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション	60
国語のNews & Topics		62

「考える技術——考えさせない時代に抗して」を読むあなたへ

誠実な言葉を取り戻すために



野矢 茂樹
のやしげき

一九五四（昭和二九）年生まれ。哲学者。立正大学教授、東京大学名誉教授。主な著書に『論理学』『心と他者』『語りえぬものを語る』『哲学な日々』『増補版 大人のための国語ゼミ』など。

ごまかしの言葉、不誠実な言葉がこれほど横行する世の中になるとは思っていなかった。言葉が歪められ、不当に誇張される。意味がずらされ、ときにはまったくのでまかせがまことしやかに語られる。そして仲間内に向けては共感を求め、外に向けては反感を剥き出しにする。

おそらく、そうしたことの根底には「他者」に対する意識のあり方の変化があるのだろう。いま、他者とは仲間内のことであり、仲間でない人は他者ですらない、そんな人が増えてきているのではないだろうか。自分の仲間はどう見られるかについてはかつてよりも敏感になり、仲間でない人たちにどう見られるかについてはかつてよりも鈍感になっている。だから、言葉も仲間内の言語に閉じていくことになる。

仲間内の言葉は他者の視点——外部の他者のまなざし——を欠いている。これで相手に伝わるだろうか。

ら始めるべきだろう。

比較的小さな一歩から始めよう。自分の言葉が他の人たちにどう受け止められるのかを気にする癖をつけるのである。私は授業でたまにこんなことをする。私の問いかけに学生が自分の考えを述べたときに、他の学生たちに「いまの発言を理解できた人」と手を挙げてもらう。手を挙げる人が少ないと、発言した学生もショックだろう。次に、手を挙げた学生にいま理解した内容を説明してもらおう。すると違う内容が説明されて、正しい理解ではなかったことが露呈したりする。かなり意地の悪い授業であるから、こうしたことが学生を傷つけないように「ダメでもちっとも恥ずかしくない」という雰囲気作りをしておかねばならない。その上で、自分の発言が実は他の人たちにきちんと伝わっていないのだということを経験する。この経験はものすごくくだいじなことだと私は考えている。

逆に、物分かりのよい先生は生徒をダメにする。私はそんな教師だったと思う。へたをすると、学生が全部言い終わる前に「つまり、こういうことだね」と言い直してあげたりする。生徒のことを分かってくれない先生のように見えて、これは実は最低の教師なのである。自分の言うことを分かってくれない他者と出

この言葉を相手はどう受け止めるだろうか。そうした意識が言葉から失われていく。

その傾向はソーシャルメディアに飛びかう言葉に顕著に現われている。SNSは一方的に決めつける言葉や攻撃的な言葉に溢れている。それは他者に向けて投げつけられた言葉ではあるのだが、他者の視点を欠いている。それゆえ、その言葉は仲間内では真実であっても、仲間の外では虚偽、フェイクとされることになる。そうして、「ポスト・トゥルースの時代」などと言われたりする。

仲間ではない相手に向けて、その相手の視点にも立ちつつ語るといふ態度を取り戻さなければいけない。そのために必要なのはもちろん、仲間ではない他者を他者として尊重する態度を取り戻すことだろう。しかし、たんに「他者を尊重しよう」と標語を掲げててもどうにもなりはしない。むしろ言葉を変えていくことか

会い、かつ、分かってくれないからといって切り捨てたりしないで、なおも分かってもらおうと努力する。そんな経験の繰り返しだが、自分の言葉を他者の視点から見る力をつけてくれるのだ。

学生のレポートの中には、誤字・脱字・文の乱れが平然と残っているものがある。それを見るたび、これでは文章力は身につかないとため息をつく。読み直せば気づくまちがいがいくつも残っているということでは、読み直していいということである。それでは他者の視点から自分の言葉を見直す力もつきはしない。

たくさん書いていけばいつか文章力がつくというのはまったくの誤解である。誰かに読んでもらう、しかもその相手は自分の言葉をなかなか分かってくれないかもしれないし、へたをしたら傷つくかもしれない、そんなリアルな他者への緊張感をもって文章を書く。そして相手に読んでもらって、その反応に喜んだりがっかりしたり反省したりする。そうした経験だけが、文章力を鍛えてくれるのである。

自分の視点と他者の視点という二重の視点に支えられた言葉を手に入れなければならない。いささか大振りな言い方をさせてもらえば、それは必ず社会を変えていく一歩となるだろう。

「考える技術——考えさせない時代に抗して」
「考える」とはどういうことかについて、論理のエキスパートが優しく語りかける。高校生が自ら問いを立て、考える姿勢を養うための授業開きに。（『現代の国語』（現国 706））



「十七秒の沈黙」を読むあなたへ

素晴らしい言葉との出会いをもとめて



くにや ひろこ
国谷 裕子

二〇一六年までNHK総合「クロ
ーズアップ現代」のキャスターを
務める。その後、SDGsの啓蒙
活動を始め、現在に至る。主な著
書に「キャスターという仕事」な
ど。

二三年間キャスターを続けた報道番組「クローズア
ップ現代」その最終回で、作家の柳田邦男さんから「危
機的な日本の中で生きる若者たちに八か条」を紹介し
ていただいた。そのなかに、「いろいろな人と会うこ
とが自分の内面を耕し、人生を豊かにする最善の道」
という一条がありました。人生で大切なことは、人との
出会いです。そして、出会った人から聞くことので
きた素晴らしい言葉の数々は、それを聞いた人に大き
くて深い影響を与えます。その後の人生を左右してし
まう言葉さえあります。また、出会った時は素通りし
てしまった言葉が、時間を経て記憶の底から立ち上が
り、大きな力をもたらしてくれることもあるのです。

長年にわたり報道番組のキャスターという仕事をし
ていて本当によかったと思えたのは、出会えた人から、
その人しか言えない言葉を聞くことができ、その言葉
を番組を通して視聴者の方に伝えることができた時で

した。ですから私が大切にしている言葉は、書物から
ではなく、出会えた人から直接聞くことができた言葉
なのです。高倉健さんの十七秒の沈黙のあと、待つこ
とで聞こえてきた「いい風に吹かれていたい」という
言葉もそうした言葉のひとつです。

しかし、漫然と聞いていたのではその機会は訪れま
せん。その人からしか聞けない言葉に出会うには、聞
くための努力が必要です。キャスターという仕事の中心
心には、人から話を聞きだすということがありますから、
私は聞くための努力を人一倍してきました。その
経験からたどり着いた、人から話を聞くために必要な
ことが三つあります。

話を聞くための準備は重要ですが、実際に相手に向
き合ったら、準備していたものは捨てて相手の話に真
剣に向き合うこと。言葉だけでなく、ボディラングエー
ジなど、その人全体から発せられているメッセージも

観察力や想像力を働かせて受け止めること。大事だと思
えることについては聞き方を変えながら答えを求め
て最後までこだわること。このことで私は、様々な言
葉に出会うことができたと思っています。

素敵な言葉をたくさん紹介したいのですが、ここ
は一つだけ。ジャズピアニストの秋吉敏子さんの言葉
です。秋吉さんは、九一歳のいまでもアメリカで活躍
する世界的なジャズプレーヤー。お会いしたのは、秋
吉さんが七三歳だった二〇〇三年、ジャズの本場ニ
ューヨークで三十年間率いてきたビッグバンドを解散し
て新たな道に歩みだすことを決めた年でした。

秋吉さんは二六歳の時に渡米、日本人として初めて
ジャズ界の巨匠たちの仲間入りをしました。その間の
孤独で孤立を強いられたであろう闘いの日々は、他人
の言葉を寄せ付けず、自らに厳しい課題を与え続けた
生き方であったにちがいありません。私は、そのこと
について秋吉さんに、こう伺いました。「ご自身に色々
なことを課して、その答えを見つけ、また次の課題を
設定して、またそれを目指す。秋吉さんは、本当に自
分に対して厳しい方ですね」。

秋吉さんは、にこやかに「ノー、私は自分に対して
親切です。でも、親切にするというのは寝ていようと

いうことではなく、自分がどこまで行けるか、そうい
うチャンスは自分に与えるということです」と話され、
そしてこう続けました。「昨日より今日のほうが、あつ
しまったという数が少なければいいなって、そう思っ
ています」。

昨日より今日、今日より明日と、自分の可能性を信
じて、あつ、しまった、の数を日々減らしていく。こ
れがキャリアを積みあげていくということなのだ、と、
秋吉さんの言葉は私に響きました。自分に厳しく生き
てこられた方の言葉には、人を感動させ、動かす力が
あります。自分への厳しさが自分にチャンスを与える、
時々思い出す秋吉さんの言葉がいまでも私をとて勇
気づけてくれています。

素晴らしい言葉は、学識や専門性の高い、名のある
人だけから飛び出してくるわけではありません。身の
回りにいる友人や先生、家族からも、初めて会った未
知の人からも、その人でなくては語れない言葉が聞こ
えてくるはずなんです。

これから私は、たくさんの素晴らしい言葉との出
会いを楽しんでいきたいと思っています。みなさんも、
様々な人と出会い、その人から聞こえてくる素晴らしい
言葉に耳を傾けてください。

「十七秒の沈黙」

俳優、高倉健へのインタビューで、沈黙する相
手に向き合い、言葉を待つエピソードが描かれ
る。聞くこと、待つことの大切さがしみじみと
感じられるエッセイ。（『新編 現代の国語』（現国 707））



「世界を見わたす窓」を読むあなたへ

目を養う

「これを食べると、歯が丈夫になる」

そういつて生焼けのヤギの脾臓を手渡しされた経験のある人は、この文章を読む人の中にはいないだろうと思う。パキスタンの山奥で、恐る恐る口にしたりそれは、筋張った肝臓みたいな食感で、噛めども噛めども美味しいという思いは湧かなかった。

さて、だけれども、ヤギの脾臓に抵抗感を覚えたのは、なぜだろう。ブルーベリーが目が良くなるだとか、お節料理で縁起を担ぐだとか、すっぱん鍋で精力をつけるだとか、直接的または間接的な効力を期待して何かを食べるということは、他にも多々ある。なのに、それらの素材や料理に対して、苦手で食べないということはあれど、「マジかよ」と思った記憶がない。何てことはない、僕には偏見があったのだ。

我々の脳は、何かを考える時に言語を介してしまふ。

それぞれ。どの角度で見渡すかだって、好みや環境や偶然などによる。

同じ景色であっても、誰がそれを見るか、誰とそれを見るかによって、もたらされる情報は異なる。

昆虫学者なら、注目した草木の上に絶滅危惧種の小さな虫を見出せるかも知れない。人類学者は、そこにいる人々が何をどう食べているかに着目する可能性がある。宗教学者だったら、背後に聳える建物の造作に信仰関連の何かがあるのをいち早く見つけよう。持ち前の知識や関心が、森羅万象の捉えかたを変えらる。単一の風景ですら、多彩に意味をなしうるほどに。

話を戻そう。

偏った見かたしかできずに、直面した事態に対して何らかの構えを取ると、自分勝手な「常識」の押しつけとなってしまう。それが偏見というものだ。

日本での暮らしと比較して衛生的に難のある社会で、生焼けのヤギの脾臓が供されたとき、僕はその安全性を手前の「常識」で量り、一瞬ひるんだ。ただし、彼らは彼らの「常識」として、それが薬効のある稀少部位だと信じているからこそ、客人である僕に、いり一番にそれを振る舞ったのだ。幸いなことに、よそで



よしおか
吉岡 乾

一九七九（昭和五四）年生まれ。フィールド言語学者。国立民族学博物館准教授。主な著書に「なくなりそうな世界のことば」「現地嫌いなフィールド言語学者、かく語りき」など。

そういう意味で、言語は窓になぞらえうる。一つの言語が一面の窓ならば、世界は全て、嵌め殺しの窓の外にある。自分と世界との接点は窓だけで、それを通してしか世界を見ることはできない。

思考のフィルターである言語には、それぞれに世界の切り分けのクセがあるし、それぞれに複合的な文化背景がある。だから、言葉と文化的イメージとは切り離せない。日本語で「虹」と言えば七色のものだし、「アリジゴク」と「ウスバカゲロウ」とは別の生物のようだ。暗雲の中では神が鳴り、疲れば「睡魔」という魔物に襲われ、兆しは虫に報される。

意識されようがされなからうが、我々の認識する世界の風景は常に、何かしら、文化の色味が染み付いているのである。

ただ、そんな言語の窓から外をどう眺めるかは、自由だ。漫然と情景を見るか、何かに着目するかは、人

の経験と状況から、そうだと察することができたので、すかさず僕は口に入れた。美味しくはなかったが、もう二度と、ヤギの脾臓に「マジかよ」とはならない。

言語を知ること、文化を知ることにもいくらか通じる。もちろん、言語、文化、民族、国家などは、どれも一対一で対応するものではないけれども。

第一言語である日本語という大窓の隣に、もう一つ小窓でも設ければ、その見えかたの異なりから様々に新規の学びを生むだろう。色々な事物を、色々な見かたで捉える学びの経験は、決して無駄にならない。学びグセを身につけることが、多様に変幻する社会では役に立ちそうだ。同じものを別の視点から窺うだけで、「常識」という名の偏見だって問い質せる。

知識を培い関心を広げる学びから、見識といった知恵が育まれ、やがては多様な洞察を可能にする。世界も、翻って自己をも見つめて理解を深めれば、おのずからそのどちらとも、向き合いかたが知れてくる。

言語も文化も、その土壌に根を張る「常識」すらも、多様にして無二である。ならば、単なる知識だけにとどまらない、主体的に物事を見通す知恵の目こそが、養われたいものではないだろうか。



「世界を見わたす窓」

私たちは言語をとおりて、世界を眺めている。言語とは、世界を見わたすための独特な窓のようなものだ。フィールド言語学者として世界をめぐる筆者による言語エッセイ。（『言語文化』〔言文 705〕）

「一瞬の風になれ」を読むあなたへ

流れる川のように

小学生の頃、新年度に新しい国語の教科書を貰うと、たまらなくワクワクした。新しい世界へ通じる扉が幾つもあるようで、待ちきれずに先に読んでいた。中学からは、勉強の道具という認識になったが、それでも、国語の教科書の中の物語を読むのは好きだった。高校でよく覚えているのは、森鷗外の「舞姫」で、この頃から、自分が読んで感じるものが、国語で求められる正解解答とズレているのを意識するようになった。国語の成績は歴史よりいつも低く、大学は史学科に進学したが、研究者にはなれずに物語の作者となった。

どの年齢でも、文系であることは確かだったが、興味や適性などは、その都度変化するし、幅があるものだと思う。高校時代は、卒業後の進路が将来につながっていくので、多くのことに興味を持ち、得意なことや好きなことを見つけていけるといい。

高校時代、私は、本、漫画、アニメなどに没頭し、同

フとして物語を創りたいとずっと願っていた。自分が観戦する時のように、わくわくする物語を。試合や練習の一つひとつのシーンが、リアルでよく見えるようなフィクションを。少しでも嘘のない文章で。

スポーツそのものと同じくらいスポーツ漫画も好きだった。あんなふうな熱い世界を自分も創ってみたいと夢見ていた。ただ、やはり、絵があるから成立しているフィクションであり、文章だけではかなわないし無理だろうと思うものの、どうしても諦めきれずにダメ元でチャレンジすることに決めた。

視覚に頼らなくても「見せる」ことができるスポーツは何だろうと必死で考えた。小説であることで良さが出せるものは何かと。競技の時の人数が多すぎないことは、文字だけで説明する上では重要だった。個人競技だけでなく、連携するプレーが描きたかった。そこで出した答えが「リレー」。体育会系の部活を通してこなかった私が、唯一、運動会レベルでも選手であり、興奮を味わった記憶も持っていた。四人。一人ひとりを色濃く描いて行けそうな人数。バトンをつないでいくこの競技は、人と人との深い関係性も描けそうだった。そういうわけで、取材先を探して、神奈川県立高校の陸上部に四年間お世話になり、千三百枚

さとう たくこ
佐藤多佳子

一九六二（昭和三七）年生まれ。小説家。二〇〇七年、『一瞬の風になれ』で本屋大賞を受賞。その他の作品に『夏から夏へ』『明るい夜に出かけて』『いつの空にも星が出ていた』などがある。

じ趣味の友人たちと教室の隅にかたまってマニアックな話に日々興じていた。まだオタクという言葉がない時代のオタクだった。部活は、新聞部に入ったが、わりとすぐにやめ、いわゆる帰宅部となった。部活——特に体育会系の部活に燃えているクラスメートにあげられたり、少し畏怖したりしていた。あきれれるほど体力がなかったが、短距離走だけは子供の頃から速く、高校になかった陸上部を作ろうと言う動きがあった時に誘われ、ビクビクドキドキした。実現しなかったが、あの時、もし、部ができて入って、陸上部で頑張ることができていたら……、という思いは残った。

『一瞬の風になれ』は、そんな自分のあこがれやなしえなかったこと、コンプレックス、そして物語を編み出す土台となったオタク活動、様々なもので成り立っている。スポーツを自分で楽しむ人間にはなれなかったが、観ることは人一倍好きだ。スポーツをモチー

という長編を仕上げることができた。

取材先の陸上部の当時のコーチには、陸上のイロハのイから教わり、作品を進めるタイミングで、いちいちメールのやりとりをしては細かいところを教えていただいた。そのメールのプリントアウトの束の厚さは片手で持てるかどうかという、すごい物量となった。これだけ精密で親切な取材は、おそらく一生に一度の経験になると思う。いくら感謝しても足りない。そして、部員の皆さんの日々の練習から、色々な試合を見て、話も聞かせていただいた。取材しながら、書きながら、高校陸上部のど真ん中に、いつしか私は入り込んでいて、自分がかつてあこがれた輝くような熱い、そして苦しく厳しいスポーツの部活の世界に生きていくのかのような錯覚に陥った。錯覚でも一つの現実だ。届かなかった夢が、違う形で実現することもある。情熱や、その湧きだす元、流れつく行き先は、幾筋もの川のような。山中にひそやかな源泉があり、細い支流が集まり、大きな本流となる。

自分の興味や経験の行く先は、すぐには見えないかもしれないが、いずれ実るものだと思う。色々なことに目を向けて広く吸収してほしい。国語の教科書も、その一つとなることを祈りつつ。

「一瞬の風になれ」

サッカー少年だった神谷新二が、幼なじみで天才的なスプリンター、一ノ瀬連とともに、リレー競技にすべてを賭ける。疾走感に満ちた青春陸上小説。（『新編 言語文化』〔言文 706〕）





国語は、新たな時代を迎えます。
新学習指導要領では、身につけたい資
質・能力によって科目が分けられ、必修
は「現代の国語」と「言語文化」の二科
目、選択科目は「論理国語」「文学国語」
「国語表現」「古典探究」の四科目とな
りました。
大変革期に突入する国語。これまでと
何が変わるのか？ 何をどう教えればい
いのか？ 教科書はどう変わるのか？
本特集ではそんな疑問に、大修館の新
しい四冊の必修科目教科書に即してお答
えしていきます。教科書のさまざまな工
夫やしかけから、新たな科目での学びを
イメージしていただければ幸いです。
国語、新時代の幕開けです！

特集

国語新

大修館の「現代の国語」

時代を拓く

「言語文化」でさらに豊かな学びを

■大修館の「現代の国語」はこんな教科書です！

実社会に生きる国語力を学ぶ新科目「現代の国語」。大修館からは、『現代の国語』『新編 現代の国語』の2冊が登場。刊行にあたって、編集委員の先生方よりコメントをいただきました。隅から隅まで工夫に満ちた新しい教科書は、どんな思いで作られたのでしょうか。



●現代の国語
〔現国 706〕

誰も見たことのない新しい科目の教科書。作業は長い道のりでしたが、この科目を担当するのが待ち遠しくなりました。きっとたくさんアタマを使う授業になると思います。

推し！ 単元 10「他者を動かす」
p.169

石原徳子（神奈川県立多摩高等学校教諭）

「話す・聞く」「書く」単元は素材探しから資料作成まで自分で作るのが大変！そんな悩みに応えるべく、この1冊で授業ができるようにあれこれ考えて作りました。

推し！ 「資料を用いて発表する」
p.176、「作業ロボットの悲劇」
p.225

塗田佳枝（筑波大学附属坂戸高等学校教諭）

たくさんのアイデアや素材が集まり、厳選・洗練されたものがこのたび1冊にまとまりました。惜しくも割愛されたアイデア・素材も多数。指導書や副教材にもご期待ください。

推し！ 単元 7「資料を駆使する」
p.101

吉田東洋（東京都立新宿山吹高等学校教諭）

3領域の資質・能力を効果的に育成するため、定番や最新の文章から素材を選定し、言語活動を設定しました。新課程に不安な先生もスムーズに教えられると思います！

推し！ 「『家守綺譚』評」
p.97

佐藤正人（東京都立江北高等学校教諭）

授業者である先生方にとって、また学習者である生徒にとって、学習の見取り図になるような教科書にしたいという思いで編集にあたりました。そうなっていれば幸いです。

推し！ 「パン屋の手紙」
p.141

赤松幸紀（筑波大学附属高等学校教諭）

新指導要領実施に向けて不安を感じている先生、この機会に新たなことに取り組みたいと考えている先生、いずれの先生にも使いやすい教科書となることを目指して一生懸命作りました。

推し！ 「話す・聞く」「書く」単元の「導入」
p.38、p.86、p.124

山下直（文教大学教授）



●新編 現代の国語
〔現国 707〕

『新編 現代の国語』は、むしろ社会人が欲しがるようなテキストかもしれません。この1冊で、世の中で必要となる読んだり、書いたり、話したりする力がしっかり身に付きます。

推し！ 「情報を吟味しながら読もう」
p.154

幸田国広（早稲田大学教授）

新しい国語の力、どうやら楽しく確実に身につくか…(>_<) 何度も何度も話し合って作りました！授業が明るく充実したものになりますよう、お力になれば幸いです！！

推し！ 「『変わる』ことを楽しもう」
p.12、「説明のしかたをとらえよう」
p.46、「料理レシピを書こう」
p.60

下西美穂（東京都立江戸川高等学校教諭）

現場の先生と世界の未来を担う生徒たちのための1冊になりました。ぜひフル活用していただきたいと思います。

推し！ 「世界は私にほほえんでいる」
p.160

北久保友希（東京都立南多摩中等教育学校教諭）

POP例は高校生がノンフィクションの書籍を対象に作成したものです。読む力と併せて表現する力も育成でき、本を紹介する発表まで行えば学習活動がさらに充実します。

推し！ 「本のPOPを作ろう」
p.116

山口正澄（東京都立大江戸高等学校教諭）

楽しい。おもしろい。わかった。できるようになった。うれしい。——生徒たちのこのような思いと輝く表情が満ちあふれる授業。この教科書はそのような授業を作ります。

推し！ 「説明のしかたをとらえよう」
p.46

三宅義蔵（元千葉県立千葉高等学校教諭）



「話す」「聞く」「読む」「書く」活動が活発になるような教科書になることを心がけました。生徒たちが楽しく学び、力をつけていくことを願っています。

推し！ 「テーマを決めて話し合おう」内「アイデアを広げる」
p.126、「アイデアを整理する」
p.127

秋元誠道（麗澤中学校・高等学校教諭）

魅力的で着実な学びにつながる教材選び、教材作りを心がけて作りました。この教科書なら、豊富な教材や言語活動を通じて楽しく役立つ授業が展開できると思います。

推し！ 「聞き取りのレッスン」
p.70、「ミニインタビューをしよう」
p.72、「聞き取ったことをまとめよう」
p.76

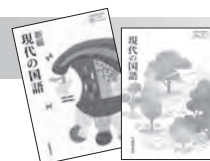
初谷和行（武蔵野大学准教授）



私も最前線で悪戦苦闘する教員です。先生も生徒も使いやすく生き生きと授業に臨める教科書にこだわりました。大修館「現代の国語」なら新課程にもスムーズに対応できます。

推し！ 「料理レシピを書こう」
p.60

仲野敏樹（東京都立広尾高等学校教諭）



これならできる！ 「話すこと・聞くこと」の授業

こうだくひろ
幸田国広

早稲田大学教授

■「現代の国語」における「話すこと・聞くこと」

新しい共通必修科目「現代の国語」は、実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目である。「話すこと・聞くこと」領域には二〇～三〇時間が配当されている。

SDGsを掲げる現代社会は、多様な背景や考えを持つ他者と協働しながら困難な課題の解決に挑む力の育成を求めている。「話すこと・聞くこと」に寄せられている期待感は、そうした社会的背景を持つ。各校の国語科三年のカリキュラムに「話すこと・聞くこと」領域の指導計画を確実に位置付けたい。

これまで高校国語科では「話すこと・聞くこと」に十分な自信を蓄えてきたとは言いがたい。実際、不安の声も多く聞かれる。そうした現状を踏まえ、新しい教科書では、当該領域の指導に不慣れな先生方でも扱いやすい教材が豊富に用意されている。

■興味を持ちながら楽しく学べる『新編 現代の国語』

『新編 現代の国語』（現国707）では、基礎の基礎から学べるミニ・ワークや短時間でも実践可能なレッスンがたくさん用意されている。話す場面や相手意識をふまえた語彙の選択、言葉遣いのまがい探しのようなもの（「伝わるように話そう」等）から、身近なモノを紹介するスピーチ（「ショートスピーチをしよう」）、様々な目的に応じた話し合いの学習（「テーマを決めて話し合おう」他）である。いずれも見聞き単位を基本として学習活動が展開していく紙面構成となっており、授業イメージが持ちやすい。イラストや写真等のビジュアル要素も豊富で、見やすい大判サイズの教科書だ。

パッと見でここまで具体的でわかりやすいなら、生徒の自学自習も可能だろう。先生方は、教材の導きにしたがってファシリテーターに徹し、「主体的・対話的で深い学び」の組織に注力できる。つまり、教材を解説する

こと以上に、生徒の活動の質や反応・学習評価に目を向ける余裕も生まれるということだ。

■コミュニケーション力を育成する『現代の国語』

『現代の国語』（現国706）では、基礎から始まり、無理なくハイレベルな力を身に付けることができる。「話すこと・聞くこと」の各単元は、導入の短い読み物教材からはじまり、「ウォームアップ」で単元の目標をつかみ、細かく階梯付けられた「ワーク」と「課題」でステップアップを図る。学習過程がわかりやすく構成されている。また、他領域との関連も考慮されていることも特徴的だ。例えば、「10 他者を動かす」では、まず説得力のある企画書の書き方（書くこと）が用意されている。そ



『新編 現代の国語』（現国707）単元2
「日本語を使いこなす」p.36より



『現代の国語』（現国706）単元10
「他者を動かす」p.177より

の後に、資料を用いたプレゼンテーションの仕方（「話すこと・聞くこと」）の学習が待っている。これらをそれぞれ単独の単元として扱うこともできるが、両者を連動させて指導計画に位置付けるとより効果的だろう。さらには、永江朗の「インタビュの醍醐味」、山中伸弥の「どう伝えるか」等、読み物教材も豊富に用意されており、話したり話し合ったりする活動の意味を振り返り、学習の意義を確認するのに便利である。

■「話すこと・聞くこと」の役割と意義

話したり話し合ったりという学習活動は、当然のことながら三領域すべての中で展開される。手段としての言語活動と領域とは混同せず、計画的系統的な指導ができるよう、年間指導計画に「話すこと・聞くこと」の単元を適切に位置付ける必要がある。そのことによって国語科だけでなく他教科等の話したり話し合ったりする言語活動の質を担保することになる。カリキュラム・マネジメントの要としての国語科の責務を意識したとき、「現代の国語」における「話すこと・聞くこと」の役割はきわめて大きいと言えるだろう。



多彩な活動で「書くこと」の価値を実感する

しまだ やすゆき
島田康行

筑波大学教授

■新学習指導要領と「書くこと」

新しい学習指導要領は、各科目の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域に授業時数を配当しています。「現代の国語」では「話すこと・聞くこと」に二〇～三〇単位時間程度、「書くこと」に三〇～四〇単位時間程度、「読むこと」に一〇～二〇単位時間程度が配当されています。三つの領域の中でも「書くこと」に最も多くの授業時数が配当されているわけです。この科目では「書くこと」に力点を置きながら、三つの領域をバランスよく学ぶことが求められます。「現代の国語」における「書くこと」の指導事項は次の通りです。

ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。

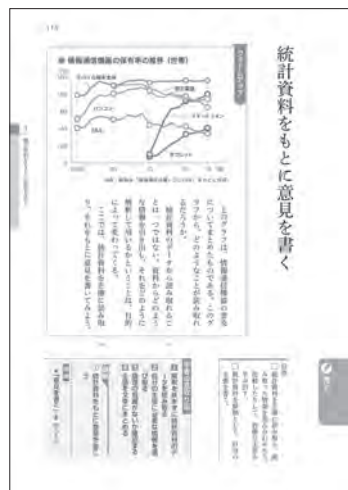
イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。

拠、データの読み取り方、反論のしかたに力点を置いて学ぶことで、より説得力のある意見文の書き方を、段階を踏んで身に付けることができるような構成になっています。また、要所に配された豊富な参考文献は、授業の立体的な構成に大いに役立つはずで。

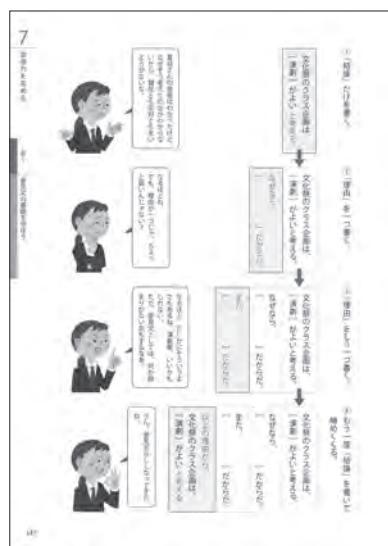
さらに、一冊の最後には、年間のまとめとしてレポートを書く活動を配置しています。ここでは、問いの立て方や情報収集の方法など、探究的な学習に欠かせない要素を学び、論じること、論証することの基礎となる力の育成を目指します。

■基礎から学べる『新編 現代の国語』

『新編 現代の国語』（現国707）は、言葉の使い分けや、



『現代の国語』（現国706）単元7
「統計資料をもとに意見を書く」p.115



『新編 現代の国語』（現国707）単元7
「意見文の基礎を学ぼう」p.137

ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方などを考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。

エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

大修館書店の『現代の国語』『新編 現代の国語』は、これらの指導事項を無理なく学べるように、「読むこと」の教材と有機的に関連させながら言語活動を配置し、さまざまな「書くこと」の力が確実に身に付くように工夫しています。

■バラエティ豊かな『現代の国語』

『現代の国語』（現国706）が提案する「書くこと」の活動はバラエティに富み、意見文、紹介文、企画書などを書くこととなります。

このうち、特に意見文については年間で三つのステップを用意しています。それぞれのステップで、主張と根

適切な表記、接続表現など、「書くこと」の基礎から丁寧に学び、目的に応じて書くことや意見を書くことを初歩から学ぶことができるよう構成されています。

内容には「絵や写真を説明しよう」「料理レシピを書こう」といった、学習者が関心をもちやすい題材を取り上げつつ、親しみやすく効果的なイラストや図表によって学習者の抵抗感を低減するように配慮しました。

学習者が「書くこと」の意義や価値を実感できることを目指して編集された一冊として、自信をもってお勧めできます。



新たな「読むこと」へのチャレンジ

やました なおし
山下 直

文教大学教授

■はじめに

令和四年四月から、いよいよ高等学校の新科目「現代の国語」が実施されます。ここでは、新しく編集された大修館の「現代の国語」の教科書について紹介することで、新学習指導要領の下での「現代の国語」の「読むこと」の指導のイメージをつかんでもらえればと思います。

■「国語総合」と変わらぬ単元数、教材数

新学習指導要領では「現代の国語」の「読むこと」領域の配当時間は年間一〇〜二〇単位時間程度となっており、「国語総合」に比べると配当時間が大きく減った印象をお持ちの先生方も多いかもしれません。大修館では『現代の国語』（現国706）と『新編 現代の国語』（現国707）の二点の教科書を準備していますが、「読むこと」領域については、『現代の国語』が六単元・一四教材、『新編 現代の国語』が五単元・一三教材で、いずれも「国語総合」と変わらぬラインナップを揃えています。

「現代の国語」へ抵抗なく移行する一助となればと考えて、このような構成としました。学習者の実態によって、全ての単元をこなすことが難しい場合には、実態に合わせて単元を選択してください。

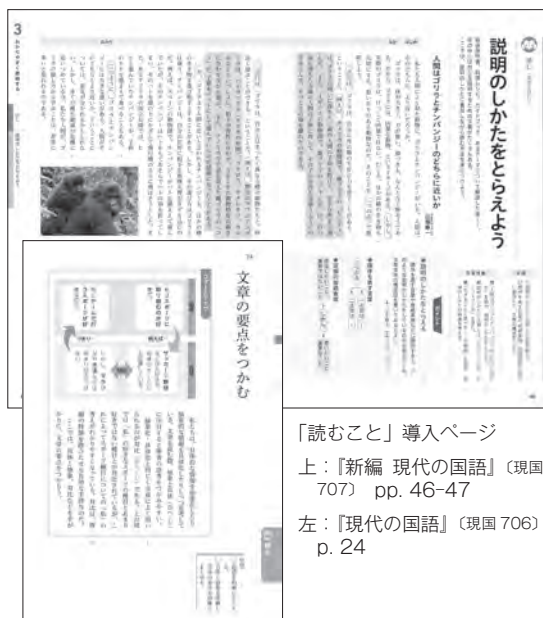
■単元のねらいをより一層明確化

これまでの「読むこと」の学習指導では、どうしても教材文の内容を正確に読み取ることに重点が置かれがちで、どの単元でも似たような授業展開になってしまう傾向があったかもしれません。そこで、『現代の国語』、『新編 現代の国語』では、各単元でどのような資質・能力を身に付けさせるのかを明確にし、単元名を見ればそれが一目でわかるようにしてあります。

例えば『現代の国語』では、「文章の要点をつかむ」「文章の論理をとらえる」、『新編 現代の国語』では、「説明のしかたをとらえよう」「論理の展開を読み取ろう」という感じです。こうすることで、単元ごとの重点項目が

わかりますので、授業展開に違いを付けやすくなり、「読むこと」の授業にこれまで以上にメリハリを付けやすくする助けにもなると思います。

また、両教科書ともに、各単元の始めには、単元で身に付けさせたい資質・能力に焦点化した導入ページも設けています。「対比」「主張と根拠」「具体と抽象」といった「読むこと」で注意したいポイントを、例文や図なども用いてわかりやすく紹介しています。ここでこの単元



「読むこと」導入ページ

上：『新編 現代の国語』（現国707） pp. 46-47

左：『現代の国語』（現国706） p. 24

でどのようなことを学習するのかを確認するとともに、学習内容の復習などにも活用してもらえればと思います。

もちろん、これは単元で身に付ける資質・能力を強制するものではありません。あくまでも一つの提案として柔軟に受け止めていただければと思います。

■「読むこと」の新たな学習指導へのチャレンジ

ほかにも、資料と文章の関係に着目したり、文章を比べて読んだり、情報を吟味したりする単元も設けています。例えば、比べ読みとして、『現代の国語』では、コミュニケーションのあり方を論じた二つの評論「空気を読む」（香山リカ）と「個人」から「分人」（平野啓一郎）、『新編 現代の国語』では、複数の「新聞投書」などの比較をご提案しています。これらの単元は、「国語総合」の「読むこと」の学習指導ではあまり重点が置かれてこなかったと思われる資質・能力の育成をねらいとしています。（もちろん、すでに実践されている先生方もたくさんいらっしゃると思います。）

「現代の国語」ではこのような資質・能力の育成がこれまで以上に重視されますので、これらの単元を活用し「読むこと」の新たな学習指導にもチャレンジしてもらえればと思います。



楽しくトライ！ 「実用的な文章」の授業

はつがい かずゆき
初谷和行

武蔵野大学教育学部准教授

はじめに

現代社会では、評論や論理的な文章だけではなく、様々な文章や表現があり、それらを読みとったり、様々な方法で表現したりすることが求められます。そのことをふまえて、新科目「現代の国語」の「内容の取扱い」では、「現代の社会生活に必要なとされる論理的な文章及び実用的な文章」を扱うよう明記されました。

それでは、「実用的な文章」とはどのようなもので、どのような授業が想定されるのでしょうか。教科書を見ながら考えたいと思います。

『現代の国語』「社会への視点①」(P.49)

『現代の国語』(現国706)には、規約や広告など、実社会で用いられる表現に親しむコーナー「社会への視点」が設けられています。ここでは、「社会への視点①」より「熊本県のPRキャラクター『くまモン』のイラスト



『現代の国語』(現国706) p.49

利用について」という規約を見てみましょう。規約というと、条文や契約書など、味気ない文書を思い浮かべるかもしれませんが、ここではイラストやQ&Aを用いて、利用規約がわかりやすく書かれています。授業ではまず、Q&Aの特徴に着目させます。以下のよう

・「よくある質問」の表示が目立つように配置されQ&Aであることの視認性が高い

・(1)～(5)にある使用の具体例を「個人が利用する場合」と「Q」でまとめたうえで、「A」で「次に例示」として、後の具体例(1)～(5)に誘導している

・文末表現が「場合」にほぼ統一されている

なお、特徴をとらえさせる際には、教科書掲載の文書以外のQ&Aを準備して比較させることも考えられます。次に、とらえた特徴をふまえて実際に文章を書かせてみましょう。「○○(体育館、図書館等)使用」についてのQ&Aなどが考えられます。

『新編 現代の国語』「打ち言葉」(P.42)

『新編 現代の国語』(現国707)には「表現への扉」「参考」といったコーナーに、実社会に存在する、さまざまな実用的な文章が採録されています。ここでは、「打ち言葉」のページを使った授業展開を考えてみましょう。

そもそも「打ち言葉」とは、スマートフォンなどを用いてメールを書いたり、SNSに書き込んだりするときに使う言葉を指します。書き言葉でありながら、くだけた話し言葉のような文体が特徴です。このような説明を、Q&Aと解説、グラフを組み合わせて記述しています。

授業で文章全体の構成・展開・表現をとらえさせるには、例えば次のような発問を投げかけてみましょう。

・Q&Aの「A」や「解説」では、「Q」の内容のそれぞれどの部分に対する答えを担っているのか
・グラフのどこに着目して文章は書かれているか
・「解説」のタイトルは他に何が考えられるか

とらえたことをふまえて表現活動として発展させるには、例えば教科書の文章から引用や要約をしながら「打ち言葉」の使用や効果等について考えをまとめることが考えられます。また、「打ち言葉」の内容を要約したり図式化したり30秒程度のプレゼンテーションにしたりするなど、内容を再構成して表現させることも考えられるでしょう。さらに、本教材で学んだ構成や展開、表現に関する知識を使って、言葉に関する別のテーマで文章を書かせるといった「書くこと」の学習として発展させることも可能です。

おわりに

実生活でよく目にする実用的な文章であっても、その工夫についてじっくりと考えることは無いと思いますので、このような学びは貴重な機会となるのではないのでしょうか。是非、トライしてみてください。

■大修館の「言語文化」はこんな教科書です！

古典から現代文まで、幅広い教養を学ぶ「言語文化」。大修館では、『言語文化』『新編 言語文化』の2冊を刊行。そもそも「言語文化」とはどんな科目なのか？ 先生方の思いの詰まったコメントとともに、この後続く記事をご覧ください！



●言語文化
〔言文 705〕



教材だけでなく、「単元名」と「単元の目標」も工夫しました。「解釈の視点」や「言語文化の窓」もぜひ、ご活用ください。

推し！「ゼイナブの指」p.38、「青が消える」p.79
高橋龍夫（専修大学教授）



「言語文化」は学習者の「ことば」という「窓」に文化の香り高い「風」を吹かせるために編集しました。生徒とともに、学びを楽しんでいただきたいと思います。

推し！「世界の言葉」口絵①②、「世界を見わたす窓」p.10
藤森裕治（文教大学教授）

言語の中の文化、文化の中の言語、そして言葉、文化そのものの深さを考えることのできる教科書になりました。すみずみまで使っていただける教科書です。

推し！言葉のタネ③「色のイメージ」p.78
永田里美（明星大学准教授）



「想いを表す言葉〈一〉恋するころ」では、編集部の方と一緒に悩みながら恋歌を選びました。高校生の心に届く歌となることを願っています。

推し！「恋するころ」p.174、「探究 災害の記録」p.137
奥村準子（筑波大学附属高等学校教諭）



楽しみながら力が付く、生徒にも先生にも魅力的な教科書を目指しました。現場での使いやすさも重視しています！

推し！「言語文化の窓」
石鍋雄大（東京都立大泉高等学校附属中学校教諭）



皆さんを含めた全人類の言語の軌跡が「言語文化」です。論語・源氏物語・羅生門から方言も外国語もあなたの名前も「言語文化」です。

推し！「木曾の最期」p.204、「寿永三年正月」p.213
大倉浩（筑波大学教授）



「言語文化」という新しい科目のために、新しい学びのあり方を発見できるような教科書を創りました。「国語」の枠を飛び越えた「言語文化」の世界へようこそ。

推し！「サーカス」p.108、「Circus」p.110、「探究」p.137、p.168、p.286
杉本紀子（東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭）



●新編 言語文化
〔言文 706〕

国語を学ぶ意味を再認識できるような学習が実現できる！そうした教材化や資料を組み合わせる授業構想ができます！古典への再認識から連続した言葉の移り変わりを感じられます。

推し！「キーワードで読み解く言語文化」口絵①②、「現代と古典を比べてみよう」口絵⑧⑨
西一夫（信州大学教授）



「楽しく漢文を学んでほしい！」という思いを第一に親しみやすい題材をそろえました。「完璧」を「完璧」と書く人がいなくなりますように…

推し！「蛇足」p.242、「完璧」p.258、「言語文化の窓 漢文を身近に感じよう」p.233
酒井雅巳（巣鴨中学校・高等学校教諭）

日本文学と日本文化のエキスをこれ一冊につまんでいる本。見てだけで幸せな気持ちになれます。もう一生手放せません。

推し！「芥川の才筆——若くして完成された文体」p.99、「人気エッセイスト、清少納言」p.190
高草真知子（東京成徳大学教授）



ことばによる文化を見つめること、そしてことばによって文化を創り出すことを、そして、ことばを見極めてことばと共に生きていくことをすべての高校生に考えてほしい！

推し！「足し算の文化」p.66
大井和彦（東京大学教育学部附属中等教育学校教諭）

1100年前に世界はどうだったか。アメリカは？ ヨーロッパは？ 私たちは現代とそれほどかけ離れていない日本語でその頃の物語を読めるのです。それってスゴくないですか。

推し！「一瞬の風になれ」p.49、「言語文化の窓 日本文化を探ろう」内「外国人が『自分が日本人になったと思う瞬間』」p.79
石塚修（筑波大学教授）

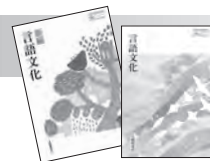
私たちが何気なく使っている言葉、当たり前だと思っている習慣やものの考え方。それらに目を向け、様々な気づきや知見のきっかけをつくることのできる内容になっています。

推し！「言葉の森を育てよう」p.10、「言語文化の窓 現代に息づく古典」内「現代に息づく古典を探してみよう」p.174
竹島千春（東京都立南多摩中等教育学校教諭）



古今の名文や日常の言葉を振り返る問いを載せることで、生徒たちが自然と声を出せるような教科書を目指しました。国語教育の「これまで」と「これから」をつなぐ一冊です。

推し！「とんかつ」p.38、「ことばは光」p.107
古川佳奈（専修大学松戸中学校・高等学校教諭）



「言語文化」教科書の「窓」と「風」

ふじもりゆうじ
藤森裕治

文教大学教授

■言語文化財集から言語文化素材集へ

教科書に掲載された教材をどう教えるか。高校国語科の典型的な授業づくりは、多くの場合、この問いから出発する。いわゆる初めに教材ありきの授業づくりである。

これに対し、新学習指導要領が求める授業とは、学習者に育てたい資質・能力は何かという問いから始まる。実在する学習者の状況に基づいて学習指導を構想し、それに適合する素材を教科書などから収集・検討するのである。

しかしながら、教科書教材をもとに学習指導を構想するスタイルを放棄することは、多くの教師にとって至難の業だろう。あえて変える必要性も実感できないはずだ。とすれば、教科書それ自体のあり方を新学習指導要領の学力観に沿って改修するのが最適ではないか。すなわち、教授する価値のある言語文化財集から、学習者の「ことば」を幅広く素材集への転換である。



『言語文化』（言文705）「世界の言葉」口絵①②

新教科書「言語文化」は、見た目はなじみの国語教科書と同工異曲の構成にみえるはずだ。だが、ひとくく「この文章はこういう資質・能力の育成に活かせる」と連想できる素材を集めたことに気づくはずである。小稿ではその実際例をいくつか取り上げ、本教科書の扱い方を少しく紹介したい。

■世界を見わたす「窓」

『言語文化』（言文705）では、口絵に「世界の言葉」と題して世界各地の言語から集められた言葉が掲載されている。例えばウェールズ語の「ヒライス」は、「もう帰れない場所に帰りたいと思う気持ち」という意味を表す。室生犀星の名詩をウェールズ語に訳せば、さしづめ「H I R A E T H (Shokei Ito)」と題されることだろう。この素材は、冒頭単元「世界を見わたす窓」の筆者吉岡乾の『なぐさりそうな世界の言葉』からの引用である。

本文中で、氏は「言語とは、それぞれが、世界を見わたすための独特な窓のようなものである」と言う。言語文化を学ぶための基本的態度が集約された至言である。

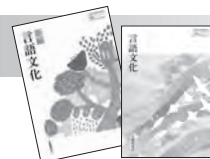
単元の導入は、「学習のポイント」からヒントを得ることができ。例えば3「……文化や自然環境に根ざした表現が身近にないか、話し合ってみよう。」に注目すれば、次のような話題から学びが始まることになる。

【話題例1】 信州東部や東海地方の方言には、人を誘う言い方に「行かず」とか「行かまい」といった表現がある。なぜこの地域では打ち消しの形で勧誘するのだろうか。

【話題例2】 「谷」の付く地名を集めてみると、関東では「熊谷」「千駄ヶ谷」のように「ガヤ」と読む地名が、関西では「黒谷」「鹿ヶ谷」のように「タニ」とする地名が多い。なぜ関東と関西とで違うのだろうか。

【話題例3】 東北の太平洋沿岸では、夏に海から吹く冷風をヤマセ、冬に内陸部の山から吹き下ろす冷風をオロシと呼ぶ。風にまつわる語彙にはどんなものがあるだろう。

こうした話題を紹介しながら「我々のみならず、異なる言語で生活する人々はどうな『ことば』でどのように世界を見ているだろうか」と問いかけ、教科書の文章に



向かう。

人々がどのような「窓」すなわち言語で、世界をどう見わたしているのかという問いは、歴史的・文化的・社会的に多様な答えをもたらす。それによって、「文化としての言葉」を学ぶことへの動機付けを図り、自らの「ことば」を自覚しかつ豊かにすることの意義を共有するのである。

本文に触れた学習者は、自分の「窓」がどんな形で開かれ、何をどのように見わたしているのかを自ら問うことになるだろう。そして、今の自分の「窓」だけでは見ることのできない世界の大きさに気づくのである。

余談だが、【話題例1】の「行かず」の語源について、筆者はかつて郷土史家と自称する地元の高人から、こう説明されたことがある。

「昔、当地の城主が武田信玄と戦ったとき、停戦協定を裏切って奇襲をかけられ、征服されてしまった。その苦い経験から生まれた符牒なのだ。」

博識に感心しつつも改めて調べてみると、実は勧誘の意を表す古語の「むず」が詰まって「行かず」になったものらしい。老人の「窓」には郷土史というガラスがはめ込まれており、そこから眺めたために右のような珍答が生まれたのである。だが、当地の歴史を偲ばせる語源

近現代の小説をひもとくと、次のような描写が見つかる。

・風が、「稲や」の前に植えてあるおもとの葉を、揺らした。
(川上弘美「水かまきり」)

・「やっぱり風がしみると見えて、くしゃみを、はや三度もしました。」
(三浦哲郎「とんかつ」)

・次の瞬間、何か強烈な熱い風を胸に吹き込まれた気がした。
(佐藤多佳子「一瞬の風になれ」)

・それは十月の初めの風の強い夜だった。(村上春樹「鏡」)
・風は門の柱と柱との間を、夕闇とともに遠慮なく、吹き抜ける。
(芥川龍之介「羅生門」)

これらは、作品の点景ないし設定として描かれたものであって、物語の中心な流れと直接的にかかわるよう



『新編 言語文化』(言文706) 読書の広場
「一瞬の風になれ」p.51

説とも感じられ、再訪して修正する無粋は慎んだことだった。

■文学で「風」を読む

随想・評論に比べ、文学の読みの授業では、初めに教材ありきという姿勢を見直すことが難しい。選抜された文学作品がもつ文化的価値は巨大であるし、学習者自身の「ことば」に焦点を当てて文学を素材化する作業など、およそ見当がつかないと思われるからだ。

「言語文化」の教科書には、近現代におけるさまざまな小説が掲載されている。もとよりこれらの内容を正面切って解釈することも、「言語芸術」としての言語文化を学ぶ上では価値あることに違いない。しかし、資質・能力ベースの学びを尊重するのであれば、これまでの文学教材の扱い方を見直し、視点を大胆に変えてみることを勧めたい。

例えば「世界を見わたす窓」で紹介した【話題例3】を文学の読みに敷衍してみよう。すなわち、我々になじみの「風」という自然現象が、教科書の文学作品ではどのような語彙と象徴性をもって語られているかという視点から、作品群を見つめてみようという学びである。

この視点に立って『新編 言語文化』(言文706)にある

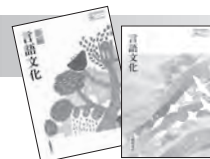
には思えない。しかしながら、前後の文章を読んでみると、いずれの描写にも重要な共通点があることに気づく。

それは、いずれも主人公の心理や状況に大きな変化や事件がもたらされるしるし、あるいはきざしとして「風」が描かれているという共通点である。五人の作家はそれぞれの言語的感性をもってこの自然現象を書き込んだはずだ。それにもかかわらず、五作品すべてが、きわめてよく似たメタファーをもって「風」を吹かせているのである。

この発見に心動かされた学習者には、「小学校や中学校で読んだ物語にも同じような描写はあるだろうか」とか、「古典では『風』はどう描かれているのだろうか」とか、「小説はどういう『文法・仕組み』で物語られるのだろうか」とか、「日本人にとって『風』がもっている文化的な意味とは何だろうか」といった問いを示すとよい。それによって、「財」としての文学を教える学びから、「材」としての文学で遊ぶ学びへの「窓」が開かれるのである。

■言語文化としての災害

前述した「風」というモチーフは、古典文学から近現代文学まで、「うつろい」という観念とともに吹き続けている。そしてそれは、さまざまな温度と湿度、そして速度とをもって未来へと吹き抜けてゆく。このイメージ



は、高等学校「言語文化」における学習観そのものである。右のイメージを「言語文化」の学びに投影する上で格好な素材の一つとして、古典に取材した近現代の文章がある。よく知られているのは前掲した芥川龍之介「羅生門」である。設定と大まかな筋を「今昔物語集」に求め、これを近代文学として編み直した「羅生門」は、高校国語教材として最も長く掲載されてきた作品の一つでもある。授業では、おそらく「今昔物語集」と「羅生門」とを読み比べ、その異同について考える学びが広く行われているはずだ。しかし、両者は説話と文芸というジャンルの差はもとより、内容的にも違うところが目立つ。

このとき、心を留めてみたいのが設定の共通性である。いずれも平安末期の京都の南端、朽ちかけた楼閣が舞台となっている。羅生(城)門が荒廃した最も大きな要因は、他でもない、当時の都を襲った災害の数々である。

周知のように、我が国は世界でもまれに見る自然災害の頻発地域である。その災禍は、古くは鴨長明「方丈記」、浅井了意「むさしあぶみ」に、近代でも寺田寅彦「震災日記」、そして芥川龍之介「大震雜記」などに描かれている。これらの文章が災害をどのように描き、それに巻き込まれた人々をどのように見つめているのか訪ねることは、また一つの「風」となって学習者の「窓」に吹き

込むはずだ。

こうした着想から、「言語文化」では、探究の単位として「災害の記録」を収録している。右に挙げた諸作品のさわりを紹介し、災害が人々のものの見方や考え方に与えた影響を考えてみようという単元である。

本単元を編集していた頃、編集委員会では、新型コロナウイルス感染症で世界が激変することなど夢にも思わず、検討が重ねられていた。奇しくも、いまや災害と人間というテーマは、洋の東西を問わず、我々が文字通り命をかけて向かわねばならない問題をはらんでいる。

■むすびに

災害に見舞われたとき、人々を勇気づけ、心をつなぐ最も重要な文化的装置の一つは「ことば」である。世界が感染症の嵐にもまれ、巷に寒風が吹きすさんでいても、未来の言語文化の担い手たちの「窓」には、希望と潤いに満ちた「風」が訪れる日々であってほしいと切に願う。

新学習指導要領に対しては、「文学の危機だ」といった批判を叫ぶ識者もいる。あまりにも小さな「窓」である。学習者の「ことば」が豊かな「窓」と「風」とをもって成長することを祈り、そして信じる。それが「言語文化」を初めとするこれからの学びに、託されているのである。

言語文化 古文編

国と時代を超えて

「言語文化」を受け継ぐ

おおくらひろし
大倉浩

筑波大学教授

生きている人間が使うかぎり、文化を背景に持たない言葉などない。その意味で「言語文化」が扱うのは、人間の言語活動の様々な成果の全てであろう。日本語(国語)を飛び越えて、世界の諸言語に目を向けたドリアン助川氏(『新編 言語文化』)や吉岡乾氏(『言語文化』)の文章から始まる大修館の教科書は、まず画期的だと自負したい。それを視覚化した口絵の「世界の言葉」「日本の言葉」(『言語文化』)も素敵である。

■古文編の工夫

それに比べて古文編は、教材名だけ見ると、「国語総合」の延長のように見えるかもしれないが、扱い方がまるで違う。その教材が、日本のいつの時代のどこの話なのか、誰がどのような意図で書き残した物なのか、時代のスタイルや作者・作品の解説を丁寧(丁寧)に盛り込むことで、現代の読み手がしっかりと意識できるように工夫している。

例えば、『言語文化』(言文706)の『徒然草』は「をりふしの移り変はるこそ」から始まる(次ページ)。難しいと思うかもしれないが、時代スケールで鎌倉時代後期の随筆であることを示し、春夏秋冬と本文を区分をし、本歌や先行作品の文章を「言葉のタネ」としてまとめて示して、兼好法師の思考の流れに近づく工夫をしている。

『新編 言語文化』(言文706)の『枕草子』「春はあけぼの」でも、本文を四季に区切り、下段には「春」の部分の作家杉本苑子と日本語学者山口仲美の現代語訳、モリスによる英訳、サメマチオのマンガを示して、背景とする文化の違いが言葉や映像にどう反映するかを示した。漫然と古い文章を読んで理解するのではなく、どんな時代のどんな背景を背負って、現代にたどり着いた文章なのか、読む我々はどう評価し、それらをどのように次代へ「言語文化」として伝えていくのか、様々に生徒に考えさせることを目指した教科書作りをしたつもりである。



■「年代物」の文章——古文

近代以降の文章に比べ、古文は背負っている文化の重みが違う。ワインではないが、「年代物」の文章ばかりである。読解の手続きのためには、語釈や文法が必要になるが、できるだけ傍訳や脚注を施して、読みやすくし



『言語文化』（古文705）古文編 単元2
「自然へのまなざし」 pp.156-157

た。古文は読み継がれ、書き継がれてきたなかで、とくに詩歌や物語のジャンルでは、様々な解釈や異なった見方ができるような深みと、改作や続編を生み出す魅力が増している、いわば熟成しているのであるから、丁寧に味わうことが必要である。『言語文化』を例に、具体的に見てみよう。

「恋するころ」では、「みかの原」についての水原紫苑と小池昌代の鑑賞文を並べている。この歌の解釈・鑑賞の幅広さに気づいてもらうための工夫である。「旅と別れ」の「立ち別れ」では、古い解釈が藤原定家の歌や、世阿弥の能にまで影響を与えていたことを解説した吉海直人の文章を加えている。

いっぽう古文でも、随筆や評論の文章は、ことわざや故事成語のように、個別の事例や個人的な思いが長い時間の中で抽象化され純化して、地域や時代を超えた一つの真理に近づいていくことも多い。

『おくのほそ道』『平泉』は、小学校から学んでいる文章かもしれないが、杜甫の漢詩「春望」ときちんと並べて読むことで、この文章の思いが、国や時代を超えてつながっていることがわかるだろう。

言語文化 漢文編

先人の英知を現代に活かす ——漢文学習の新たな視点——

にしからず
西一夫

信州大学教授

■現代社会で漢文を学ぶ意味

教室で生徒から漢文を学習する意味は何か、と問われることはありませんか。これは古文でも同様の状況にあります。古典全般に対する生徒の素朴な疑問なのでしょう。調点が付された漢文を読み、何を手に入れることができるか。生徒にとっては必要性がなかなか感じられないのが現実なのではないでしょうか。

漢文には先人の英知やたくましく生きる人間の姿が、多様な表現方法で描き出されています。そうした人間ドラマや思索の成果を共有することで、新たな思考方法や行動指針を手にすることができるよう。大修館の二冊の「言語文化」では、身近な「温故知新」（『論語』）が持つ意味を具体的な教材を通して学ぶことができるよう、さまざまな工夫を凝らしています。

■学びの資質・能力——教科書活用で身につく学力
大修館の教科書は、「学習指導要領」が定める指導事

項との対応を考慮して「資質・能力」を身につけることができるような構成となっています。二冊の教科書では、基本方針を共有しながらも、それぞれ独自の教材化やコラムなどの対応が見られます。そうした一面を教科書の活用方法と授業アイデアとから見ていきましょう。

『言語文化』（古文705）の目次構成は標準的な構成となっています。全体を貫く構成として、コラムに「解釈の視点」「言語文化の窓」が設けられ、前者では教材を読み進める上での基本事項（漢詩の形式と表現）、後者では歴史背景（杜甫と安史の乱）や表現の広がり（「名前と呼び名」）を学ぶ契機となる内容で構成されています。またミニコラム「言葉のタネ」では語彙指導につながるヒントが盛り込まれています。このようなコラムと教材とを使いながら、漢文由来の表現の習得や活用を目指す授業が構想できるよう。加えて「資料編」には「漢文の舞台・漢文の世界・漢文の言葉」を集約して、授業

「現代の国語」 「言語文化」のご案内

特設サイトは
こちら



新時代の学びをサポートする4点の教科書。
特色と教材ラインナップをご紹介します。

●現代の国語●



『現代の国語』
現国706



『新編 現代の国語』
現国707

●言語文化●



『言語文化』
言文705



『新編 言語文化』
言文706



『言語文化』(言文705) 漢文編
「言語文化の窓」①
「漢文から生まれた言葉」p.252 より



『新編 言語文化』(言文706) 漢文編
「言語文化の窓」
「漢文世界の広がり」p.266 より

が円滑に進められるよう編集しました。

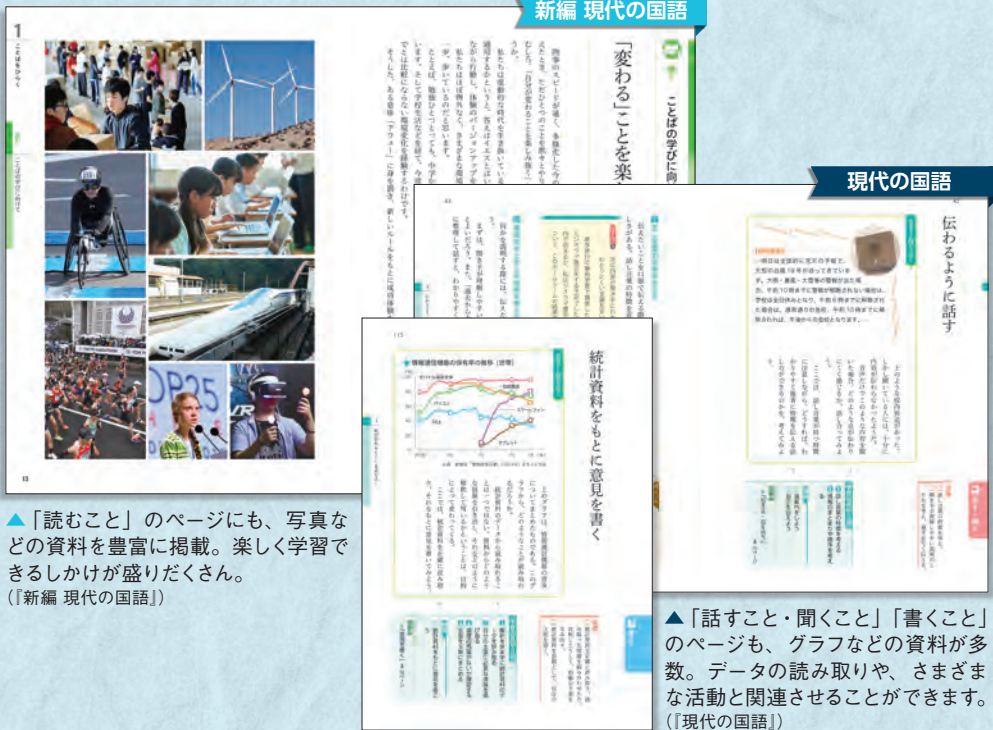
『新編 言語文化』(言文706)でも全体を貫くコラム「こ」とは「言語文化の窓」が設けられています。「守株」や「蛇足」、「論語」などの定番教材に関連して、古典が現代の生活につながることを意識したコラムや、マンガ・映画などの視覚資料に見られる漢文の姿を積極的に紹介しています。巻末の「現代と古典を比べてみよう」でも豊富な視覚資料を用いて同様の工夫を行っています。韻文教材は「詩歌の調べ」として現代文編と古文編の間に設けられています。四季分類を基本とするアンソロジーで、季節が文学の表現としてあり続けてきた様相を具体的に概観できます。時代や形式などで分けるので

はなく、一連の流れの中で表現の工夫などを知ることができるような学習を想定しました。共通する意識や時代特有の表現など、新たな発見ができる教材化です。

■言語文化としての漢文

正確に漢文を理解することも大切ですが、漢文を通して現代社会を見直す機会を作ることには重要な学びです。それ故、漢文を学ぶ意義は、先人の言葉に耳を傾けながら、そこに込められた英知の一端を知ることなのではないでしょうか。

私たちが学んだ頃とは、学習形式や価値観は変化しています。そうした時代の要請に応えつつ、今日的な漢文の学習意義を教科書から読み取っていただきたいと思います。



新課程 Q&A

「現代の国語」は、
契約書やグラフの読み取り、
話し合いが中心になる？

「実用的な文章」は新課程で重視されるキーワードであり、大修館の教科書でもしっかり対応しています。
一方で、論理的な文章を的確に読み取る力も大切です。大修館の2点の「現代の国語」では、定評ある「水の東西」（山崎正和）をはじめ、今日注目されているテーマの評論文を豊富に収録しました。

■「現代の国語」に文章が掲載されている主な著者

小川洋子	池上嘉彦
川上弘美	野矢茂樹
小熊英二	國分功一郎
鴻上尚史	山崎正和
山極寿一	山中伸弥
稲垣栄洋	宮崎駿
国谷裕子	福岡伸一
池谷裕二	池上彰
石川直樹	村上春樹

『現代の国語』

『新編 現代の国語』

現代を生き抜き、未来を拓く言葉の力を育む

「現代の国語」 の学びへ、ようこそ！



『現代の国語』

現国706



『新編 現代の国語』

現国707

「現代の国語」の
領域別時間数

話す・聞く	書く	読む
20 30 時間	30 40 時間	10 20 時間

社会制度も、技術も、人々の価値観も、めまぐるしいスピードで大きく変わっていく現代。現代社会のさまざまな課題を正しく把握し、粘り強く解決策を探究し、未来を切り拓いていく。そのための土台になるのが、言葉の力。国語力です。

あふれる情報を正しく理解し活用する「読む」力。自分の考えが伝わるように論理的に「書く」力。他者を尊重しながら交流する「話す・聞く」力。大修館の「現代の国語」では、これらの国語の力を駆使して、未来を切り拓くための「方法知」を育みます。

現国706 A5判 286ページ

実社会で生きる
実践的な「話す・聞く」「書く」「読む」力を育む
新時代の国語教科書



CONTENTS

1 明日をひらく 白紙 考える技術・考えさせない時代に抗して ■伝える・伝え合う	森田真生 野矢茂樹
2 要点をつかむ 読む 文章の要点をつかむ 「動」への変化 水の東西	山崎正和 落合陽一 藤沢晃治
3 的確に伝える 話す・聞く 設計図を最初に渡せ！ 話す・聞く 伝わるように話す 書き わかりやすく書く 社会への視点① さまざまな規約	藤沢晃治
4 意見を示す 話す・聞く 発想を広げる 書き 意見を書く 参考 ブラシック汚染からは逃げられない	中嶋亮太
5 論理をとらえる 読む 文章の論理をとらえる 動的平衡としての生物多様性 自然と人間の関係をとらえて考える	福岡伸一 内山節
6 魅力的に伝える 導入 「伝える」の先にあるもの 話す・聞く 工夫して話す 書き 魅力的な紹介文を書く 参考 「家守綺譚」一評 どれくらいの不思議まで人は許せるのか 異界のものがおととりと楽しげに	ジェーン・スー 小川洋子 川上弘美
7 資料を駆使する 読む 資料と文章の関係を読む 「安くおいしい国」の限界 インターネット時代の音楽産業 書く 統計資料をもとに意見を書く	小熊英二 吉見俊哉 鷺田清一
8 他者と交流する 導入 他者を理解すること 話す・聞く 目的に沿った質問をする 課題文 速回りの金メダル 参考 インタビューの醍醐味 書き 状況に応じた通信文を書く 参考 パン屋の手紙	永江朗 川畑秀明 高階秀爾 平野啓一郎 神幸紀・中村好文
9 情報を比較する 読む 文章を比較して読む 「美しさの発見」について 参考 脳は美をどう感じるか 空気を読む 「個人」から「分人」へ	香山リカ 平野啓一郎
10 他者を動かす 書き 説得力のある資料をつくる 参考 企画書『となりのトトロ』 話す・聞く 資料を用いて発表する 参考 どう伝えるか 社会への視点② さまざまな広告	宮崎駿 山中伸弥
11 主張を吟味する 読む 根拠を吟味して読む 贅沢を取り戻す 言葉についての新しい認識 書き 文章を読み取って主張を書く 課題文 感情とは何か 話す・聞く 討論をする	國分功一郎 池上嘉彦 清水真木
12 考えを発信する 読む 主体的に読む 白 作業ロボットの悲劇 話す・聞く 結論を出すために話し合う 書き レポートを書く 参考 問いを立てる	原研哉 松田雄馬 上野千鶴子



特色
4

大判ならではの見やすくわかりやすいレイアウト

「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材は上段に学習活動、下段にポイント欄を配置。学習活動の流れがわかりやすい紙面を実現しました。図表や写真の可視性もアップ！

特色
3

バラエティー豊かな読み物を多数掲載

論理的な思考力を育む評論、関心や意欲を高めるエッセイ、料理レシピやアニメーション映画の企画書などの実用的な文章といった、多様な学習材を用意しています。

特色
2

基礎から発展へ、一歩ずつステップアップ

教科書全体をとおして、学習段階を考慮しながら構成しました。国語の力を着実に身につけていくことができます。

特色
1

三つの領域をバランスよく配置

言葉に関する知識・技能と「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の力を育む教材を、学習のねらいに応じて10の単元に分けて構成しました。

新編 現代の国語

現国707 B5判 238ページ

これからの社会で必要な
「他者に共感する力」「論理的に考える力」
「言葉で伝え合う力」を高める教科書



CONTENTS

巻頭

1 ことばをひらく

読む ことばの学びに向けて「変わる」ことを楽しもう
ことば コミュニケーションは技術だ
ことば ことばの準備体操

谷川俊太郎

2 日本語を使いこなす

読む ことば ことばの使い分け
書く 正しく書く
書く 文を整え、文をつなぐ
話す・聞く 伝えるように話そう
表現への扉 ことばを使いこなそう
敬語によらない「丁寧さ」
病院は「繁盛」するか
打ち言葉
無口なほうですか？

蒲谷宏
石黒圭
文化庁
村上春樹

3 わかりやすく説明する

読む 説明のしかたをとらえよう
人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いかな
パンバーワンが、オンリーワンが生きていることと食べるこの意味
書く 絵や写真を説明しよう
書く 料理レシピを書く
話す・聞く ショートスピーチをしよう
参考 さまざまな「説明」

山極寿一
稲垣栄洋
福岡伸一

4 聞く力を育む

話す・聞く 聞き取りのレッスン
話す・聞く ミニインタビューをしよう
書く 聞き取ったことをまとめよう
表現への扉 インタビューのコツ
インタビューの醍醐味——アドリブ十七秒の沈黙

永江朗
国谷裕子

5 論理を読み取る

読む 論理の展開を読み取る
オカビの胃袋はいくつか
商品と贈り物の違い
水の東西
極北へ
ももこのいきもの図鑑
宇宙人はいますか？
鉄を削る
書く 本のPOPを作ろう
多様なジャンルの本に手を伸ばそう

今井むつみ
松村圭一郎
山崎正和
石川直樹
さくらももこ
須藤靖
小関智弘

読書の広場

6 伝え合いのレッスン

話す・聞く 対話のレッスン
話す・聞く テーマを決めて話し合おう
表現への扉 コミュニケーションのヒント
他人に声をかける
対話 まずは「聞く」ことから
人間だけが「話し合い」を選べる

穂村弘
伊藤守
森田汐生

7 説得力を高める

書く 意見文の基礎を学ぼう
書く 反対意見を想定した意見文を書こう
話す・聞く ミニ討論会をしよう
表現への扉 自分の意見をもつために
人間の価値
人工知能が教えてくれるもの

神津カンナ
池谷裕二

8 情報と向き合う

読む 情報の興味しながら読もう
世界は私にほえんている
どこまでもプラスチック！
書く レポートを書く
表現への扉 メディアとの付き合い方
たったひとつの「真実」なんてない

佐藤雅彦
小林洋美
中嶋亮太
森達也

9 他者を動かす

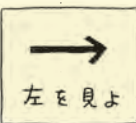
書く 魅力的な企画書を書く
参考 企画書の実例
Y市におけるシェアサイクルの取り組み
企画書「となりのトトロ」
話す・聞く プレゼンテーションをしよう
書く 相手を動かす依頼状を書く
参考 依頼状の実例
パン屋の手紙
表現への扉 伝える力を高める
たった一人に伝えたい
どう伝えるか

神幸紀・中村好文
梅田悟司
山中伸弥

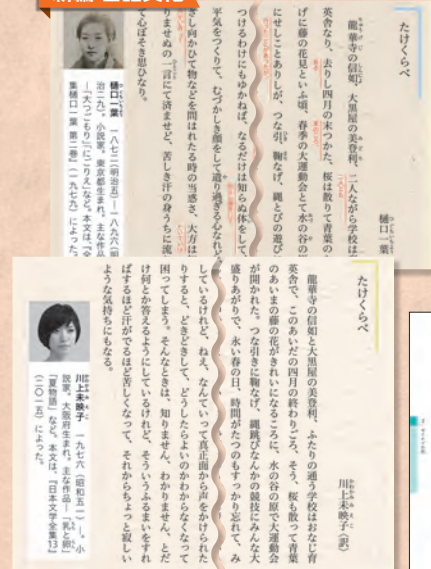
10 社会に目を向けて

読む 自分の考えを深めながら読もう
何のために「働く」のか
自分の考えをつくるために
表現への扉 自分と社会を見つめて
Aーと生きる若者たちへ
①慣用表現の意味 ②言葉遣いに対する意識 ③コミュニケーションで大切なこと
④通信手段と誤解・トラブル ⑤日本の気候変化 ⑥ボランティア活動に対する意識
⑦電子書籍を利用するか ⑧メディアに対する信頼度 ⑨インターネットとの付き合い方
⑩働くことへの意識 ⑪学校生活をどうとらえるか

池上彰



新編 言語文化



▲「たけくらべ」の原文を川上未映子の現代語訳とあわせて読むことで、言語文化の連なりを実感。(『新編 言語文化』)

▶新しい文学作品を多数掲載！古典も美しい図版やコラムが大充実。(『言語文化』)



新課程 Q&A

「言語文化」は、
小説と古典だけになる？

「言語文化」の教材には、古典や現代の小説など、文学作品だけでなく、言語や文化に関する評論も含まれます。大修館の2点の「言語文化」では、定番教材から今日的なテーマの文章まで、魅力的な評論をバランスよく収録しました。

■言語文化(現代文編)の主な著者

- 若松英輔 西加奈子
 アーネスト・ヘミングウェイ
 アーサー・ピナード 安部公房
 志賀直哉
 寺田寅彦 芥川龍之介
 小池昌代 夏目漱石
 村上春樹

『言語文化』

- 佐藤卓
 又吉直樹 福島智
 樋口一葉
 ドリアン助川 樋口一葉
 佐藤多佳子 川上未映子
 朝井リョウ 川上弘美

『新編 言語文化』

時間と空間を越えて、ことばと文化の豊かさを知る

「言語文化」
でことばの旅へ

『言語文化』
言文705



『新編 言語文化』
言文706

「言語文化」の
領域別時間数

読む	書く
………	………
(古典)	5
40	10
45	時間
(近代以降)	
20	
時間	

普段なにげなく使っている日本語も、生活の中に溶け込んでいる文化も、先人から受け継ぎ、育て上げてきたものです。私たちの暮らしや思考を支える言語と文化。それらを深く学び、実生活に生かしていくことは、人生を豊かにすることにつながります。

古典から現代に至る、時間的な「タテのつながり」。

国内の多様性から世界へと開かれる、空間的な「ヨコの広がり」。

大修館の「言語文化」では、そうしたつながりと広がりを知り、豊かな知性と感性を身につけるための「内容知」を育みます。

言語文化

言文705 A5判 364ページ

日本と世界の架け橋となる、言語文化の担い手を育む教科書



CONTENTS

現代文編

1 言語文化への招待

世界を見たす窓
文字の深秘

吉岡乾
若松英輔

2 言葉の紡ぐ世界

▼参考 『今昔物語集』巻第二九第一八
ゼイナブの指
実体の美と状況の美
短歌 十五首
俳句 十二句
夢十夜
青が消える (Losing Blue)
良識派

芥川龍之介
西加奈子
高階秀爾

3 伝統と発展

外国語の不思議・日本語の不思議
橋のたもと老人
サーカス
Circus
城の崎にて
セメント樽の中の手紙
わたしが一番きれいだったとき
探究 災害の記録
方丈記 (安元の大火/治承の辻風) 鴨長明/むさしあふみ (明暦の大火) 浅井了意/震災日記より 寺田寅彦/大震災記 芥川龍之介
宇治拾遺物語
田舎の児、桜の散るを見て泣くこと/児のそら寝/絵仙師良秀
今昔物語集
阿蘇の史、盗人にあひてのがること
徒然草
をりふしの移り変はるこそ/神無月のころ
枕草子
九月ばかり/雪のいと高う降りたるを
▼参考 春はあけぼの (『枕草子』)
▼参考 日野山の閑居 (『方丈記』)
探究 季節を感じる
春と秋 古典歳時記
万葉集・古今和歌集・新古今和歌集
恋するころ
狂おしい恋心 (水原紫苑) 恋の始まり (小池昌代)
四季の移ろい
見立て (鈴木宏子)
旅と別れ
赴任か帰京か (吉海直人)

久保田淳

4 表現の多様性

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

夏目漱石
村上春樹
安部公房

5 日本と世界

阿蘇の史、盗人にあひてのがること
徒然草
をりふしの移り変はるこそ/神無月のころ
枕草子
九月ばかり/雪のいと高う降りたるを
▼参考 春はあけぼの (『枕草子』)
▼参考 日野山の閑居 (『方丈記』)
探究 季節を感じる
春と秋 古典歳時記
万葉集・古今和歌集・新古今和歌集
恋するころ
狂おしい恋心 (水原紫苑) 恋の始まり (小池昌代)
四季の移ろい
見立て (鈴木宏子)
旅と別れ
赴任か帰京か (吉海直人)

久保田淳

6 文学と人生

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

久保田淳

1 古文に親しむ

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

久保田淳

2 自然へのまなざし

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

久保田淳

3 想いを表す言葉(一)

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

久保田淳

4 人と人の交わり

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

久保田淳

5 語り継がれる歴史

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

久保田淳

6 旅と人生

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

久保田淳

1 漢文に親しむ

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

久保田淳

2 現代に生きる言葉

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

久保田淳

3 想いを表す言葉(二)

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

久保田淳

4 文学と社会

蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
▼参考 枕草子
蛇足/完壁/鶏鳴狗盗/臥薪嘗胆
静夜思/江雪/山行
友情
贈汪倫/送元二使安西/過故人莊
涼州詞/月夜/香炉峰下、新天山居、草堂初成、偶題東壁

久保田淳

本誌 46 ページを参照!

特色 1

タテとヨコの言語文化

ことばと文化の歴史的な連なりをおさえる「タテ」の言語文化と、さまざまな地域・国とのつながりをおさえる「ヨコ」の言語文化。古文・漢文はもちろん、名作小説や翻訳の文章もふんだんに掲載。

特色 2

自ら調べ、自ら深める「探究」

生徒が自分で調べ、考えを深める「コーナー」探究」を設置。多彩な資料をもとに、探究的な学びを実践することができます。

特色 3

大学入学共通テストにも対応

和歌と鑑賞文、古文と漢文の比較読みなど、新テストにも対応する教材を豊富に収録。入試対策も万全です。

特色 4

多彩なコラム

作品を読み解くための技能をおさえる「解釈の視点」、豊かに言語文化を知るための知識を育む「言語文化の窓」に加え、教材の後ろには言葉に関する豆知識「言葉のタネ」を収録。

特色 5

図録・資料の充実

巻頭・巻末では、カラフルな図録で日本と世界のさまざまなことばを幅広く紹介するほか、コラムや本文にも多数の図版を掲載。

【解釈の視点】

- ①小説の構造 ②短歌・俳句の秀麗 ③比喩と象徴 ④文化と言葉 ⑤作品の背景
- ①古典の言葉 ②俳句結び ③和歌の修辞 ④助詞の働き ⑤歌謡 ⑥助動詞の働きと見分け方
- ①漢語の基本構造 ②漢詩の形式と表現

【言語文化の窓】

- ①翻案の世界 ②日本の美意識 ③受け継がれるテーマ ④翻訳と言葉
- ①恋愛と結婚 ②『平家物語』の世界 ③月はカレンダー付き時計?
- ①漢文から生まれた言葉 ②杜甫と安史の乱 ③名前と呼び名

【言葉のタネ】

- ①動物を用いた表現 ②さまざまな桜 ③色のイメージ ④ものの考え方 ⑤オノマトペ
- ⑦文末表現の工夫 ①「あし」と「よし」「わろし」と「よろし」 ②引用と作品の広がり
- ①「髪」を用いる慣用語 ②月のイメージ

【訓読のきまり】

- ①返り点の種類と用法 ②再読文字の種類と用法 ③主な助字の種類と用法

新編 言語文化

言文706 B5判 312ページ

新鮮な教材と豊富な図版で言語文化への
興味をかき立て、ことばの旅へと誘う教科書



CONTENTS

現代文編

1 ことばと 出会う

言葉の森を育てよう
季節の言葉と出会う
漢字と仮名の使い分け
■言語文化の窓 日本語の豊かさ、再発見
水かまきり
とんかつ
■言語文化の窓 現代小説に出会う
瞬間の風になれ
▼参考 人生を照らす読書体験
「ブックガイド①」 自分に合った小説を見つけよう
「ブックガイド②」 世界文学に飛び込もう

ドリアン 助川
黛まどか
阿辻哲次
川上弘美
三浦哲郎

読書の広場

2 表現を味わう

足し算の文化
ほとほとデザイン
■言語文化の窓 日本文化を探ろう
羅生門
▼参考 『今昔物語集』 巻第二十九第一八
■言語文化の窓 芥川龍之介と「羅生門」
芥川の才筆 若くして完成された文体
祖母が笑うということ
ことばは光
コルベ神父
■言語文化の窓 希望を育む
夢十夜
形
▼参考 『常山紀談』 松山新介の勇将中村新兵衛が事
■言語文化の窓 日本近代文学を楽しもう
たけくらべ
春のうた／夏のうた／秋のうた／冬のうた
■言語文化の窓 詩歌を楽しもう
古文への招待
いろは歌／古文冒頭選
▼参考 いろはカルタの世界
児のそら寝
十二の「子」文字
阿蘇の史、盗人にあひてのがるること
■言語文化の窓 現代に息づく古典
古典の魅力

デービッド・アトキンソン
佐藤卓
芥川龍之介
村上春樹
又吉直樹
福島智
遠藤周作
夏目漱石
菊池寛

3 文化を 見つめる

4 物語を 受け継ぐ

5 ことばと 生きる

6 近代文学に 触れる

詩歌の調べ
古文に親しむ
徒然草
高名の木登り／公世の二位のせうとに／奥山に猫またといふもの／
神無月のころ
枕草子
春はあけぼの／うつくしきもの／にくきもの
■言語文化の窓 随筆文学の広がり
人気エッセイスト、清少納言
伊勢物語
芥川／筒井筒／あづま下り
▼参考 恋愛と結婚
平家物語
木曾の最期
■言語文化の窓 物語のいろいろ
土佐日記
門出／旅の終わり
更級日記
あこがれ
おくのほそ道
旅立ち／『おくのほそ道』の旅
■言語文化の窓 旅の文学マップ
訓読のきまり／格言／再読文字
■言語文化の窓 漢文を身近に感じよう
漢文のすすめ 未来を考えるヒント
守株／五十歩百歩／蛇足／借虎威
■言語文化の窓 故事成語に親しむ
論語
学問のすすめ／社会に生きる
■言語文化の窓 『論語』と現代
「論語と算盤」
完璧
鶏鳴狗盗
人面桃花
■言語文化の窓 漢文世界の広がり

1 古文に親しむ

2 随筆を楽しむ

3 物語の広がり

4 旅への思い

1 漢文に親しむ

2 現代に生きる ことば

3 古人に学ぶ

4 漢文を楽しむ

①オノマトペの効果 ②方言の味わい ③和語・漢語・外来語 ④比喩の効果
⑤点字と手話 ⑥役割語の世界 ⑦古文の言葉と仮名遣い ⑧文の構造 ⑨用言の活用
⑩助動詞と助詞 ⑪敬語 ⑫漢語のいろいろ ⑬論語から生まれた言葉

特色
4

大判だからできた、見やすく
楽しい紙面

大判の特長を生かして、読みやすくわかりや
すい紙面デザインを実現。生徒の好奇心を刺
激する写真やイラストを多数盛り込み、眺め
だけでも楽しめる教科書に仕上げました。

特色
3

授業で使える！ 古文編・漢
文編の工夫

教材本文では、見開き単位を意識した紙面構
成をし、使いやすいレイアウトを追求しまし
た。古文の助動詞や漢文の訓読など、つまず
きやすいポイントについても、わかりやすく
徹底的に解説しています。

特色
2

日本の「言語文化」を实感で
きる「言語文化の窓」

受け継がれてきた言葉や文化についての解説、
著名人による古典作品の紹介など、興味・関
心をかき立てるビジュアルなページを、各単
元末に設置しました。

特色
1

新鮮で魅力的な教材群

言葉の価値や文化のつながりなど、重要な
テーマに触れられる新教材が満載！ 小説は、
定番の「羅生門」を始め、夏目漱石から村上
春樹まで、近現代の名作を網羅しました。

教師用指導書セットのご案内

大修館の新しい教科書での授業を万全にサポート。
「指導書」「付属DVD」「教師用教科書」の3点セット。

指導書

「こう授業すればよい」がひと目でわかる！
丁寧な学習指導案を複数パターン提示。

学習指導案	
A案 4時間扱い	■ 主体と執筆の関係を理解し、文中での具体例の役割をとらえる。[29頁] ■ 主体例の位置や対比の関係をとり、文章の意匠を的確につかんでみる。[30頁]
1	20 「水の東西」をつかむ。 ・「水」の「東」の「西」の関係を理解し、文中での具体例の役割をとらえる。 ・「水」の「東」の「西」の関係を理解し、文中での具体例の役割をとらえる。
2	35 「水の東西」の叙述の ・「水」の「東」の「西」の関係を理解し、文中での具体例の役割をとらえる。 ・「水」の「東」の「西」の関係を理解し、文中での具体例の役割をとらえる。
3	10 「水」の「東」の「西」の関係を理解し、文中での具体例の役割をとらえる。 ・「水」の「東」の「西」の関係を理解し、文中での具体例の役割をとらえる。
4	20 「水」の「東」の「西」の関係を理解し、文中での具体例の役割をとらえる。 ・「水」の「東」の「西」の関係を理解し、文中での具体例の役割をとらえる。

付属DVD

- ・原文データ
- ・現代語訳／品詞分解／
白文／書き下し文データ
- ・補助資料
- ・板書例
- ・ワークシート
- ・小テスト
- ・評価問題（標準・発展・実力）
- ・発問例全データ
- ・音声データ
- ・学習ノートデータ
- ・漢文エディタ

教材配信サービスの案内

付属DVD収録のデータをダウンロードして
入手できる配信サービスをご用意しました。

評価問題
「発展」には大学入学共通テストに 対応した問題もご用意。

小テスト
その時間の授業のまとめに。 基礎・基本を10分でチェックできる。

教師用教科書

生徒の教科書と一体裁で、学習指導案、評価の
観点、設問の解答例などを朱記。別売り可。

水の東西
山崎正昭

ワークシート
活動的な授業がサポートできる、 使いやすいワークシートが盛りだくさん。

板書例
「水」の「東」の「西」の関係を理解し、文中での具体例の役割をとらえる。

「話す・聞く」の評価もばっちり！ 具体的な
観点別評価規準例を提示。

観点別評価規準例
「話す・聞く」の評価もばっちり！

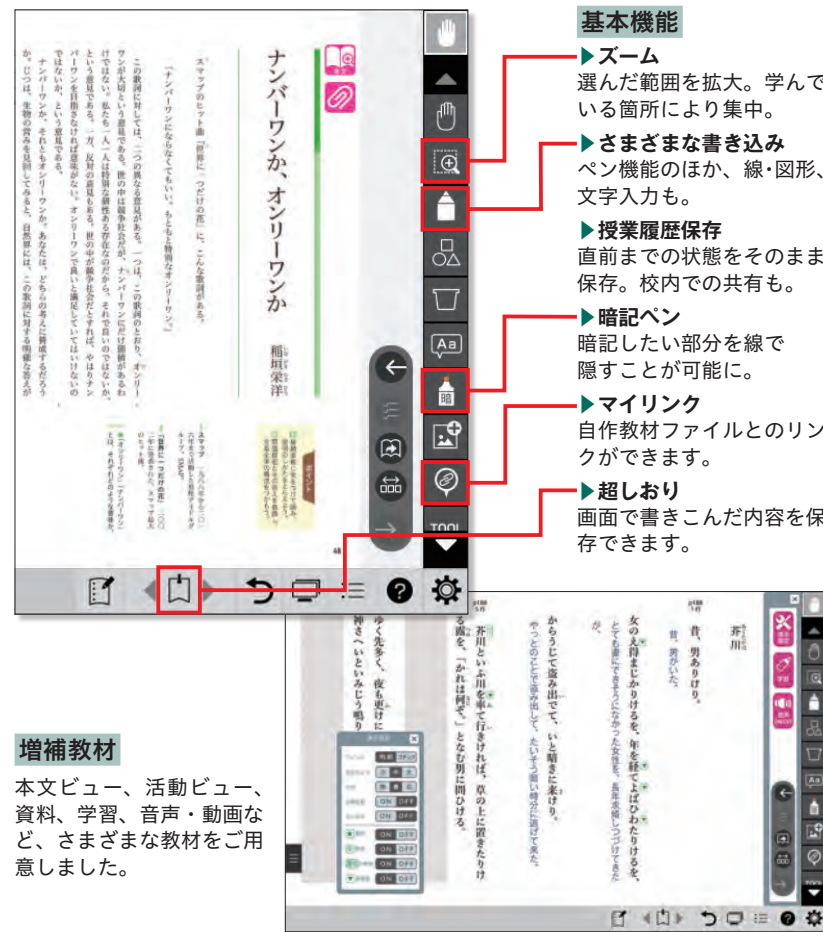
デジタル教科書「別売」

見てさわって使いやすい、新しいデジタル教科書を3種類ご用意しました。

指導者用デジタル教科書／学習者用デジタル教科書＋教材／学習者用デジタル教科書

基本機能

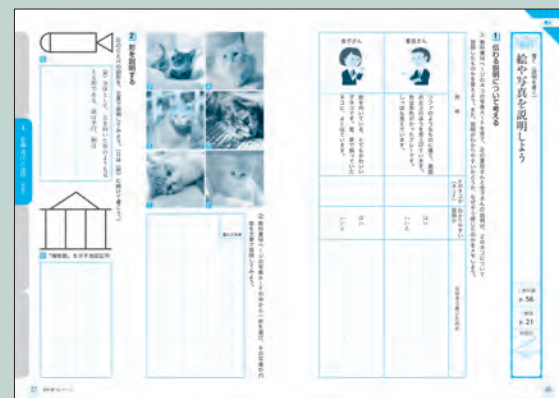
- ▶ **ズーム**
選んだ範囲を拡大。学んでいる箇所により集中。
- ▶ **さまざまな書き込み**
ペン機能のほか、線・図形、文字入力も。
- ▶ **授業履歴保存**
直前までの状態をそのまま保存。校内での共有も。
- ▶ **暗記ペン**
暗記したい部分を線で隠すことが可能に。
- ▶ **マイリンク**
自作教材ファイルとのリンクができます。
- ▶ **超しおり**
画面で書きこんだ内容を保存できます。



▲多機能な「本文ビュー」で授業がスムーズに！

増補教材

本文ビュー、活動ビュー、資料、学習、音声・動画など、さまざまな教材をご用意しました。



学習ノート「別売」

教科書に完全準拠。読解から表現活動・探究活動まで、予習・復習だけでなく授業でも活用できる生徒用ノート。

BOOK REVIEW



いま、高校生に読んでほしい本

「頑張ることも我慢することも悪ではない。でもそれらはよく切れる包丁のようだ。」(p.257)

どこにでもいるような控えめの性格の高校生・主人公の鈴美は通学中の電車で痴漢に遭ってしまふ。痴漢は遅刻した学生たちの言い訳の常套手段となっていてまともに取りあわない先生たち。いったい何を信じたらいのか。誰を頼つたらいいのか。泣き寝入りするしかないのか。途方に暮れて心に深い傷を負った彼女を救ったのは個性的な同級生の菊池さん。思春期の二人の懊悩と成長を軸にストーリーは転がっていく。

朝の光のように瑞々しく青空のように清々しい…自分の身を守るための武器を授けてくれる青春のバイブルな

あさのあつこ『ハリネズミは月を見上げる』(新潮社、二〇二〇年)

うちだ たけし
内田 剛

ブックジャーナリスト。約三〇年の書店員勤務を経て、二〇二〇年よりフリーに。NPO本屋大賞実行委員理事。

「生きる」ことは本当に大変だ。学校という社会の中で協調していくためには自分という役割を演じて我慢することも必要。一方ではそれぞれ生まれ持った輝かしい個性を認め合いながら互いに磨き高めることも大切である。時には意見がぶつかり闘うこともあるだろう。理不尽なことに直面した時に心に宿った正義の炎を我慢の水で消してしまふか。それとも怒りの気持ちを拳に変えて自己主張できるか。誰の心の中にもある刃のような感情を振りかざす時はいつなのか。この物語は具体的な事例を掲げて考えながら自分らしく「生きる」道を教えてくれる。ハリネズミの針のように自分の身を守る武器を授けてくれる青春のバイブルなのだ。

二〇二〇年八月刊行のこの一冊は、発売前にゲラを読んだ高校生の反響を「高校生の満足度、驚異の93%！」というキヤッチコピーに掲げて、メディアや読者に訴求する売り方で話題となった。まさに現代の高校生を描いたリアリティあふれる物語であるが、これは若い学生たちはもちろん、大人にこそ読んでもらいたい内容だ。若者たちの生々しい心の声が聞こえ、生き方に変化を与えるメッセージ性の強い名作。言葉にならない声を耳をすませて感じてほしい。読み終えればきっと目の前の暗雲が綺麗さっぱりと晴れるだろう。この物語には瑞々しい朝の光と清々しい青空がよく似合う。稀代のストーリーテラーの『バッテリー』と比肩する代表作の誕生だ！



白紙

もりたまさお
森田真生



入学直後の生徒は、授業や学校生活への期待と不安を抱えています。そんな生徒たちに、世界はまだまだ大きな不思議に包まれており、自力でわかる喜びを味わうために勇気を出して白紙と向き合おう、という筆者の言葉は心に響くのではないのでしょうか。また筆者は在野の数学研究者であり、自然科学に興味がある生徒の共感も得やすいことでしょう。

文章の前段は、人類にとって、ものが目で「見える」などの当たり前のことが、実は多くの不思議に満ちており、その不思議や謎があまりに大きいゆえに、人類はそれらを「括弧にくく」り、不思議を不思議のままにして、「広大な知と実用の世界」を築いてきたことが述べられています。後段は、数学に取り組む中で、自分の身一つで白紙と向き合う心細さと、「わかる」喜びや不思議が語られます。生徒・教員の双方にとって、新しい学びのスタートにふさわしい教材だと思います。

（塗田佳枝）

「個人」から「分人」へ

ひらのけいこう
平野啓一郎



「現代の国語」では読み比べの活動が重視されていることから、どのような教材の組み合わせが可能なかが注目されています。そんな中、「個人」から「分人」へは、「空気を読む」（香山リカ）と並置され、人と人とのコミュニケーションの在り方という論点において、読み比べる活動ができるものになっています。

筆者は、「個人」という概念の矛盾を克服すべく、「複数の人格の脱中心化されたネットワークこそを一人の人間として理解」し、その個々の人格を「分人」と呼ぶことを提唱しています。斬新な切り口によって独自性の高い内容となっていますが、その場に応じて人格を使い分ける現代の対人関係を扱った「空気を読む」とあわせて読むことによって、扱われているテーマへの理解が深まったり、新たな気づきが生まれたりするのではないのでしょうか。そのような意味でこの評論は、多くの可能性を有した教材になっているといえます。

（赤松幸紀）

「安くておいしい国」の限界

おくまえいじ
小熊英二



「コスパが良い」という言葉があるように、私たちは「安くておいしい」ものを求めがちです。それなのに本教材のタイトルには「安くておいしい国」の限界」とあり、まず興味を引かれます。読んでいくうち、「安くておいしい国」とは日本を指し、労働者の立場で見ると問題が多いことがわかってきます。末尾は「そんな生き方は、もう世界から取り残されている」と強く結ばれており、筆者の主張を読み取るだけでなく、内容の面でも考えさせられる強い力がある教材だと思います。

教科書の中では「資料を駆使する」の単元に位置し、文章とともに二種類のグラフが示されています。資料の特徴を押さえ、文章との関係を考えながら読むことは実生活（そして大学入学共通テスト）でも必要な力です。ある情報に対し、関連する情報を探して裏付けを取ったり多角的に見たりすることで、テーマに関する理解は深まります。これは、探究学習で求められる言語力にもつながっていきます。

（塗田佳枝）

作業ロボットの悲劇

まつだゆうま
松田雄馬



評論「作業ロボットの悲劇」は、「主体的に読む」活動を想定した教材です。ここでいう「主体的に読む」とは、学習者が特定の目的や問題意識をもって文章にあたることですが、そのような活動を展開するには、生徒の興味・関心の対象となる題材が欠かせません。

昨今、日常生活へのロボットの普及が話題になっています。人工知能研究にあたる筆者の文章は、爆弾を処理する作業ロボットの「悲劇」を扱いつつ、ロボットをあるえて「弱い人工知能」と呼び、将来の人工知能研究・開発の在り方を読者に考えさせる内容になっています。

今後ますますの人工知能技術の発展が見込まれ、生活に必需となっていく時代にあって、この内容は学習者の興味・関心の対象となるでしょう。文章を読んで気になったことや知りたいと思ったことについて更に他の資料を参照したり、そのようにして集めた情報をもとに「考えを発信」したりする活動につながれば何よりです。

（赤松幸紀）



コミュニケーション は技術だ

こうみしようじ
鴻上尚史



自分はコミュニケーションが下手だ、人格に問題があるのではないかと悩んでいる生徒は少なくない。そのような生徒に、筆者は正面から答える。コミュニケーションが下手なのは、野球やサッカーが下手なのと同じであって、人格とは何の関係も無い、と。

筆者の説明は実にわかりやすく、心に響く。筆者は言う。コミュニケーションは技術なのだ。やればできるようになるのだ。そもそも年に一回しかスピーチしない人が自分はスピーチが下手だと悩むのはおかしい。それは年に一回しかバッターボックスに立っていないのにヒットが打てないと悩んでいるのと同じだ。それは無茶というもの。興味をもって練習すれば、確実に上達する。

明確で、やさしく、説得力のある筆者の言葉を、生徒たちはしっかりと受け止めるだろう。そうなんだ、よし、やるぞ、という思いを抱いて目を輝かせる生徒たちの顔が見えるような気がする。

(三宅義藏)

商品と贈り物の違い

まつむけいろう
松村圭一郎



「商品」と「贈り物」、どう違いますか？ そんな素朴な点から、「経済／非経済」を区別するというきまりに従う人間の行動を浮き彫りにする文章である。

例として出されるのは、バレンタインデーの贈り物。「好きな人に思い切って、『これ受けとってください。』とチョコレートを渡したとき、『え？ いくらだったの？』と財布からお金をとり出されたりしたら、たいへんな屈辱になる。」たしかに！ でもどうして？ 商品ならお金を払って当然。でも、贈り物だと屈辱となる。身近な例で、「商品」と「贈り物」の違いを考えさせ、「経済」「非経済」へと発展させる。生徒にとってもきつ

とおもしろい文章だ。話し合い活動によって「商品」と「贈り物」の違いを考えさせると、活発な議論になるだろう。バレンタインデーの例によって筆者の主張がわかりやすくなっており、具体例の役割を実感できる。また、対比関係も明確で理解しやすい。具体例と対比を学ぶ好教材である。

(下西美穂)

人間は ゴリラとチンパンジーの どちらに近いか

やまきわじゅいち
山極寿一



この教材は、説明のしかたをとらえるためのものなのだが、見開き二ページの中に、わかりやすく説明するための要素が実に見事にそろっていて、驚かされる。

まず、その文章は、問題提起↓ゴリラの実態↓チンパンジーの実態↓結論という構成となっていて、非常にわかりやすい。そして、「二つの点」「一点目は」「二点目は」「例えば」「また」「しかし」「一方」「このように」など、わかりやすく説明するための言葉が豊富に並んでいる。さらに、その言葉に多彩な文字囲いが付されていて、このようなキーワードに注目して読めば理解しやすいのだ、ということが視覚的にとらえられるようになっていて、文章を読むのが苦手な生徒も、この二ページを見て、ああ、説明文はこういう作りになっているのか、こういう言葉に着目すれば楽に理解できるのか、と知ることになる。そのような生徒が、次に学ぶ説明文・評論文をどのような表情で読み進めるか、今から楽しみである。

(三宅義藏)

どこもかしこも プラスチック！

なかじまりようた
中嶋亮太



令和二年七月、全国でプラスチック製買物袋の有料化が始まった。生徒たちにとっても身近な変化だったはずだ。しかし、プラスチックが与える環境への影響については、生徒にとって遠い話かもしれない。

海洋学者によるこの文章は、プラスチックによる海洋汚染を非常にわかりやすく示している。「一年間に作られる飲料用ペットボトルを全部つなげる」と「地球を二四〇〇周できる」、「レジ袋の平均使用時間は十二分とも二〇分とも言われている」、人類は「プラスチックを摂取している被害者でもある」など、問題意識をもたざるを得ない。グラフや写真もあり、生徒たちの目の前に現実が示される。

教材から発展させ、自宅で出るプラスチックごみの量を調べるなど、生徒自身が興味関心をもった点から調べ学習をさせることもできるだろう。さらに発展させれば、探究活動につなげていくことも可能だ。資料、データの正しい読み取り方、示し方を学ばせたい。

(下西美穂)

文字の深秘

わかまつ えいすけ
若松英輔



題名に『文字』とあるが、筆者若松英輔が述べるのは単に文字の機能や役割ではなく、「読書」の意義である。読書とは対話である。筆者が言うようにそれは単に自己との対話にとどまらない。書物の中に存在する「生きている死者」との対話を繰り返しながら私たちは自身の生き方を見直し、時に孤独の苦しみから解放される。『文字の深秘』は『言語文化』の導入教材として、自分と言葉との出会い方を見つめる契機となるだろう。そして、その後も自分と言葉との関係を映す「鏡」のような役割をするだろうと考えられる。今まで気に留めていなかった言葉に深い意味を感じ取るようになったのはなぜなのか、難しそうだと避けていた作品に強く共感するのは自分にどのような変化が訪れたからなのか。学びを進める段階でそうした問いが生徒の中から生まれ、振り返りがなされることこそ「対話」であり「探究」の本質である。

(杉本紀子)

橋のたもとの老人

アーネスト・ヘミングウェイ



原題は『Old Man at the Bridge』。ヘミングウェイの代表作『誰が為に鐘は鳴る』(一九四〇)に至るモチーフとして評価の高い短編である。舞台はピカソの『ゲルニカ』(一九三七)の題材ともなった、第二次世界大戦開戦前夜の一九三六年に勃発した内戦時のスペイン。この内戦のドキュメンタリー映画も手がけたヘミングウェイは、橋を介した場面描写や「私」と老人との言葉少ない対話により、映像に匹敵するリアリティーを確立している。時代背景を具体的に踏まえずとも、戦渦から避難せざるを得ない一人の、置き去りにした動物を案じる心境や疲労の限界にある状況を丹念に読解することで、一短編に凝縮される戦争の悲惨さや虚しさにつながる。橋という装置、無抵抗な老人や動物、一兵士の立場など、読解の手がかりを生徒とともに発見したい。時代と舞台への深い理解や、原文と翻訳との比較による表現への着目は、言語文化による国際理解の手立てにもなるだろう。

(高橋龍夫)

ゼイナブの指

にしかな こ
西加奈子



本作品は、雑誌『MONKEY』(Vol.13 二〇一七・一〇)の「特集 食の一ダース 考える糧」に掲載された小説である。日本人にはあまりなじみのないエジプトのカイロを舞台に、ゼイナブの指(アサベ・ゼイナブ)という揚げドーナッツをめぐる八歳当時の「わたし」の回想物語である。カイロ育ちの作者によって、路地や露店、ラマダン(イスラム暦の断食)、甘いゼイナブの指や砂糖を五杯も入れるお茶など、エジプトの庶民の暮らしが子どもの目を通してリアルに表現される。エキゾチックな舞台を背景に、「わたし」を特別扱いする露店の店主と不服に思う同年代の子どもの遭遇、お菓子と同名のお手伝いさんとその子モアタズとの微温的な交流——言葉が通じなくとも異文化の中で体験した路地の現実と、憧憬や甘えがタイトルの下に巧みに展開する。八歳の「わたし」の思いを辿る読解のほか、大人と子どもの世界の往還をめぐる語り手の回想(時間)や、異文化との出会い(場所)に着眼する読解も可能であろう。(高橋龍夫)

サーカス／Circus

なかにし ちゅうや
中原中也／アーサー・ビナード 訳



中原中也の「サーカス」は長く高校教科書に掲載され多くの人に親しまれてきた。しかし皆一度くらいは「ゆあーんゆあーんゆあーん」とはいつたいどんな様子を表しているのか」と疑問に思ったことがあるのではないだろうか。中也が用いたこのオノマトペを読むとき、現代の生徒はどのような想像をするだろうか。「言語文化」でこの詩を用いて授業をするならば、まずは生徒に「ゆあーんゆあーんゆあーん」を別のオノマトペに言い換えさせてみたい。中也の時代から百年後の未来を生きた生徒たちがどんな世界をイメージし、どんな言葉で「翻訳」するかが楽しみだ。今回、アーサー・ビナードによる英語訳も同時に掲載した。彼は、このオノマトペを「SEEEEE SAAAAAAW, SEE and SAW」と訳している。空中ブランコならぬシーソーを想起し、さらに「見る・見た」を表す「See/Saw」を響かせる。言葉が背負う文化が違うからこそ違った世界の想像が可能になる、そここそ翻訳の面白さがあるのだ。(杉本紀子)



言葉の森を育てよう

ドリアン 助川 すけがわ



『新編 言語文化』の巻頭教材は、「言葉の森を育てよう」。ずばり言葉について書かれたエッセイです。

みなさんは、誰に言葉を教えてもらいましたか。少し幼い頃のことを思い出してみよう。親や兄弟、先生、テレビ、漫画、歌、本……。実に多くの人やものを介して覚えてきましたね。少し成長すると、自分で辞書や図鑑を開き、最近ではインターネットで調べることが多くなったかもしれません。この作品では、モンシロチョウという名前が実物と合体して認識される過程が、さまざまなパターンで描かれています。モンシロチョウ、どうやって覚えたんだろう……。教科書の美しい写真を見ながら思い出してみてもいいでしょう。筆者は「私たちの胸にある言葉の森に、自分で選んだ木を植えて、言葉の葉を繁らせていこう」と語っています。新しい「言語文化」の授業を通して、言葉の森に自分の好きな木を植えて、ますます豊かで輝く森に成長することを期待します。

(高草真知子)

ことばは光

福島 智 ふくしまさとし



この教材は、若くして全盲ろう者となった福島智氏によるエッセイである。「闇と静寂の中で生きることになった」という筆者にとって、母の考案した「指点字」(点字原理を応用し、両手の人差し指・中指・薬指で相手の指に触れてことばを伝える会話法)は、生きる上で共に歩く仲間との存在を実感させ、外の世界との繋がりを得させた。また筆者は、クラスメートが練習として点訳した吉野弘「生命は」の詩から、メロディーを聴いたと感じ、ことばによって閉じられていた世界に「生きるうえでの『光』」が提供されたと感じたという。

筆者のこの経験を我々が共有することにより、人と人との繋がることばの存在の意義や役割について、身近に引き付けて考えることができるだろう。それは、言語文化について思考していく過程において重要なことであり、また、「ことばと生きる」ことを考えていく資質の育成へと繋がると考える。

(大井和彦)

ほどほどのデザイン

佐藤 卓 さとうたく



「ほどほどのデザイン」は、グラフィックデザイナー、佐藤卓の評論で、日本文化に潜む「ほどほど」の魅力について述べています。「ほどほど」というと、なんだか適当な印象を受けますが、「やりきることも承知しながら、あえて手前のほどよいところを見極め、そこで仕上げておく」ということなのだそうです。

たとえば、ふろしき。一枚の布の状態に留めて、それ以上はデザインしていません。そのおかげで何十通りもの包み方があり、物に合わせた対応が可能で、バッグと違い、使わない時は小さく畳んでおけます。いわば、人間の側に備わっている「考える」力や「適応する」力を引き出す余地を残しているというのです。箸も同様で、あの二本の棒という単純さが、人の能力や繊細な動きを引き出しています。普段無意識に使っているものに、「ほどほど」という日本ならではのデザインがあることに気づき、他にもないかと探してみたくなる作品です。

(高草真知子)

形

菊池 寛 きくちかん



戦国時代に材を取った短編。「猩々緋の羽織と唐冠のかぶとに三間柄の自身の槍」が代名詞の中村新兵衛の存在は、味方には信頼の的であり、敵には脅威であった。その彼に若侍が初陣の手柄のために、羽織とかぶとを貸して欲しいと願う。新兵衛は快く認めるのだが、いざ戦場に出ると自らがいつもと異なる出で立ちでいることによって、勝手が違っていることに気がつく。その結果、敵の槍に彼の脾腹が貫かれるのだが、「槍中村」と呼ばれるほどであった新兵衛が、なぜ自身の代名詞でもあった羽織とかぶとを貸したのか。また、いつもと勝手が異なったことによって、彼は戦場で何を考えたのか。それを捉えることから小説を味わうことを考えていきたい。

そしてこの小説は、『羅生門』などと同様に古典作品(この場合は、『常山紀談』)の翻案となっているため、その比べ読みを行うことによって、近代文学・短編小説の特質を考えたり、また生徒の生きる現代との比較を考えたりすることもできるだろう。

(大井和彦)



「一人一台端末

時代」へ向けて

岡山県立林野高等学校

国語科

山田 雅之

1. 本校のICT教育について

本校は、公立高校では全国で初めてChromebookのBYODを導入した学校である。二〇一七年度入学生から年次進行でBYODを開始し、昨年度は初めて全学年が揃った状態となり、今年度で四年目を迎える。なお、教員には一人一台貸与し、Wi-Fi環境整備も進め、現在は敷地内の100%をカバーしている。

2. 授業実践

《教材・タイトル》

『史記』 ～項羽は英雄の器か？～

《教材選定の理由》

『史記』は「紀伝体」の形式により、「個人」を中心に歴

史を語ろうとしているように感じる。作品の性質にも鑑み、項羽の人物像の理解を深めさせることを目的とした。

「鴻門の会」「項王の最期」において、自身の敗北について最後まで自分の責任を認めず、天に責任を帰している項羽の態度は、「天が決めたことには逆らえない」という人間の普遍的な性質の一端を描き出している。一方で「天に選ばれた沛公」との比較では、司馬遷は項羽に対して「本紀」という天子同様の高い扱いをしながらも、項羽が天下をとれずに滅んでいったのは、彼に何らかの問題があったとする立場に立っているようにも思われる。多様な読みが期待できる教材である。

《ICT利活用の工夫や手立て》

生徒自身の読みが自己完結するのではなく、多様な読みや深い読みを導いていくために、本授業では主にClassroomの機能を活用した。Classroomとは、Google社が提供する、クラウド上に設置された課題の作成／提出／共有プラットフォームである。このClassroomにおける「質問」や「問題」の機能を活用し、「多くの」意見を「早く」回収できる。

これまでの輪読等の手法では一部の意見しか拾えなかったが、このClassroomを活用することで、全生徒の回答を共有し、多様な意見に触れることができると思える。

《ICTの活用場面》

まずは、「鴻門の会」「項王の最期」のテキストの読解を行い、その後、全体を通じての振り返りとして、以下のようICTの活用場面を設定した。

①項羽像の変化の自覚

【発問】 自分自身の読みがどこで変化したか、深まったか。

【目的】 テキストを元に捉えた項羽像を共有し、多様な意見に触れさせることで、読みを広げる。

↓ Classroom内でGoogleフォームを活用。

②司馬遷の語りの確認

【発問】 司馬遷は項羽のことが好きか嫌い。また、なぜそう考えるか。理由も含めて記述せよ。

【目的】 項羽に対する司馬遷の論賛（『新釈漢文大系』）をサブテキストとして読ませ、司馬遷が項羽に対してどのように思っているかを確認させる。理由も含めて記述させ、思考を深めさせる。

↓ Classroom内でGoogleフォームを活用。

③芥川龍之介の考える英雄像についての考察

【発問】 芥川は項羽のどのような点が「英雄」であったと考えているか。

【目的】 サブテキスト「英雄の器」（芥川龍之介著）を読み、芥川が登場人物に語らせた英雄の器を捉えさせる。

↓ Classroom内で「質問」を活用。

●まとめ

【課題】 「項羽は英雄の器だったか」という問いに対して、自身の考えを650～800字以内で述べよ。

【目的】 ①～③を踏まえたうえで、自身が考察した「英雄の器」についてレポートを提出させ、生徒の人間観について深める。

【評価基準】

A 自分なりの回答が導けている。自己の読みの変化に基づいた記述になっている。

B 自分なりの回答が導けている。

C 回答の根拠が乏しい・字数が不足している。
↓ Classroom内で「質問」を活用。

《振り返り・反省》

○生徒の意見

・司馬遷は項羽を直接褒めたりせず、あえて冷たい目線で項羽を見ることによって、読み手に項羽には優しい一面があることを強調しているのではないかと感じた。

・「英雄の器」での呂馬通は「英雄なら面目など構わず逃げるべきで、項羽は自分の失敗を天のせいにしていう」と言っているが、沛公は逃げず、天命に抗ったからこそ英雄であるのではないかと主張していた。私もそうだと思った。自分が減じると気づいてもなお、逃げずに戦い続け、最期は自ら首を切り自殺した行為は、沛公らの手により減じるといった運命を自ら手を下すことで変えた行為でもあり、天に抗う行動であるようにも思った。

○公開授業を参観した教員の感想

・論賛や芥川を読ませた点は提案性のあるものだった。
・改めて本文の表現ベースで解釈を問い直し、天命に迫っ

3. ICTの利活用の効果について

Classroom の利活用によって、多くの生徒が自分なりの解答を提出・共有することができた。これは「書く」という学習よりも「打つ・タイプする」学習の方が生徒の抵抗が少なくなっているからではないかと感じた。

また、単純ではあるが、ICTの活用によって、共有のスピードが上がるため、教室で意見を出していく「論争」や、意見を交流させる「累積」といった部分については、

これまでの輪読等比べても効果的であるように感じる。

今後の課題としては、批判的かつ建設的な意見を構築する「探究」の活動まではまだ及んでいないので、そこを目指したい。「自分とは違った色々な読み方をしている子がいる。しかも根拠が明確で納得できる。」という経験を経て、自己の考えが高次なものに昇華さ



▲授業の流れを説明するスライド



▲ Google Classroom の質問①



▲上記の質問に、生徒が回答した Google フォーム

ていくことが大事なのではないか。論賛自体が、生徒の司馬遷観の揺さぶりになるようにする必要があったのではないか。

・この実践は、項羽像を読むというよりも、項羽を通して書き手としての司馬遷像を読む実践であったのではないか。

れ、解釈の多様性が生まれてくる。こうした自分の読みが補強されて行くような体験があれば、それが「深い読み」

4. 本校国語科における国語とICT

今年度、新型コロナウイルス禍において、国語科としてもオンライン授業や課題の配信など様々な取り組みを試行錯誤しながら行ってきた。国語の授業におけるICTの利活用を効果的に行うとはどういったことなのかと考えたときに、

・生徒の学びに向かう意欲を喚起することなく、ICTを使うことを目的にしてしまうと意味がない。
・国語の授業の目的として、多様な価値観や意見を共有し、多面的な思考を獲得することが最重要である。

という結論に至った。

改めて、私たちに問われていることは授業力であり、理想の授業を描かないままICTを使っても効果が低いということを確認しておきたい。どのようにすればICTを効果的に使うことができるかについて、今一度しっかり見極めていく覚悟が、今教員に求められている。



ピーター・J・マクミラン
翻訳家、日本文学研究者、詩人。東京大学非常勤講師。著書に『英語で読む百人一首』（文春文庫）など。2019年、世界初の英語版百人一首「WHACK A WAKA百人イングリッシュ」を制作、発売。



奥村 準子
（おくむら・じゅんこ）
筑波大学附属高等学校教諭。大修館書店国語教科書編集委員。競技かるたの指導者、公認審判員、A級公認読手、また自らも競技者（六段）として活躍中。

ことばでつながる やまとうた

第2回

英語で読む

In these familiar lovely robes I'm
Reminded of the beloved wife
I have left behind, stretching far-
Sadness, the hem of journeys.

◆作者と歌

この歌は『古今和歌集』におさめられていますが、高校生の皆さんは『伊勢物語』第九段の「あづま下り」で目にすることが多いと思います。作者・在原業平は、平安時代の歴史書『三代実録』に、「体貌閑麗。放縦不_レ拘。略無_二才学_一。善作_二倭歌_一」(容姿端麗だが奔放な性格で、学才はないが和歌を詠むのは上手い)と記されています。『伊勢物語』に登場する主人公の「男」も様々な恋愛を経験して和歌を詠んでいますから、「男」のモデルが業平と言われるのも納得です。

「から衣」の歌は、東国へ向けて旅を続ける「男」が、三河の国の八橋に到着した折、水辺に美しく咲いた「かきつばた」を歌に折り込

から衣_{ころも}きつなれにしつましあれば
はるばるきぬる旅_{たび}をしぞ思ふ_{おも}

在原業平 (古今和歌集巻九・羈旅・410)

「あづま下り」とこの歌の英訳が、『言語文化』に掲載されています!

んで旅の心を詠んだものです。五七五七七の各句の頭をつなげると「かきつばた」となる折句をはじめ、掛詞や縁語、枕詞や序詞など技巧を凝らした歌になっていますので、この一首を読み解くと和歌の修辭を一通り学ぶことができます。(枕詞や序詞と解釈しない説もあります。)

現代語訳 いつも着ていて身になじんだ唐衣_{ころも}の褌_{つま}のように、馴れ親しんだ妻が都にいるので、はるばる遠くまでやってきた旅を、悲しく思うことだ。

英訳のポイント



この歌では掛詞により「馴る」「褌」「張る」など、「衣」にまつわる言葉が隠されています。この縁語を、多義的な英単語を生かして再現してみました。

たとえばfamiliarは「なる」の訳で「なじんだ衣」「なじんだ妻」両方の意味合いを持ちます。stretching farは「はるばる」と「張る」両方の訳になっており、hem of journeysは「旅につきもの」の意味ですが、hemは「褌」です。

さらに、英訳の各行の頭文字をつなぐとIRISとなります。これは、歌の各句の冒頭をつなぐと「かきつばた」となる折句の技法をそのまま訳したものです。和歌のレトリックは日本語ならではのものであり、英語では再現しにくいのですが、この歌ではちょうどうまくはまりました。

から衣きつつなれにしつましあればはるきぬる旅をしぞ思ふ（在原業平）

くらべて読む

「から衣」の歌は掛詞によって「衣」にまつわる縁語が浮かび上がってきます。男たちは、恋しい妻を都に残して旅を続けています。旅寝のときは衣服を脱がずそのまま眠る丸寝をしたことでしょうか。しかし、都で恋しい妻と共寝をした時には、同じ衣を寝具にして夜を過ごしていました。そのため、一人寝の孤独は「衣片敷く」と歌に詠まれてきました。たとえば『万葉集』巻十一・2608の、

妹が袖別れし日より白たへの

衣片敷き恋ひつつぞ寝る

という歌は、妻と離れた日からずっと衣の片袖を敷いて恋しく思いながら一人寝する男の心情を詠んだ歌です。

『伊勢物語』第六三段「つくも髪」にも「衣片敷く」を詠んだ歌があるので紹介しましょう。

さむしろに衣かたしき今宵もや

恋しき人にあはでのみ寝む

「敷物の上に衣の片袖を敷いて、今夜も恋しいあの人に逢

わないで寝るのかしら」と歌を詠んだ人物は、なんと白髪の老女でした。白髪のことを「つくも」と呼ぶのは海藻の「江浦草」に似るためで、「九十九」の字をあてるのは、百から一を引くと「白」という字になるからです。第六三段では、恋愛を諦めない老婆の願いを叶えるべく、親孝行の息子が「在五中将（在原業平）」に頼んで老母と共寝をしてもらうお話です。業平がどんな女性に対しても愛情をかける理想的な男性として描かれる一方で、老女となっても恋愛に夢見る女性の姿は、『源氏物語』に登場する「源典侍」がイメージされ、私もこんなお婆ちゃんになつてみたいなど妄想が膨らみます。

さて、「かきつばた」が詠み込まれた「折句」ですが、同時代に同じ修辞で詠まれた歌は多くありません。『古今和歌集』や三番目の勅撰和歌集『拾遺和歌集』には「物名」と呼ばれる部立があり、各句の頭ではなく、歌の途中に特定の言葉を詠み込む遊戯的な歌が集められ、「隠題」とも呼ばれました。それでは、次の歌は何が隠されているでしょう。

こき色がいつはたうすくうつろはむ

花に心も付けざらんかも

『拾遺和歌集』359 よみ人知らず

「濃い花の色はいつかまた薄く色あせるだろう。今が盛りの花に心を寄せて賞美しないことがあろうか。」こんな現代語訳になるでしょうか。音便や音の清濁の入れ替わりがあってわかりづらいのですが、この歌には「こき色がいつはた」つまり「かいつばた（かきつばた）」の花が詠み込まれています。マクミラン先生の英訳の「IRIS」同様、隠された言葉を自分で見つけられると楽しいですね。

ことばと文化

かきつばた

『伊勢物語』は後代の芸術作品にも大きな影響を与えました。江戸時代の画家・尾形光琳の描いた「八橋図屏風」（メトロポリタン美術館収蔵）は、かきつばたと八橋だけを描いた屏風ですが、『伊勢物語』を知っている人には、それだけで「あづま下り」の情景を連想させます。人物が描かれず、背景や道具だけで物語や歌の世界を表現したものは「留守模様」と呼ばれ、当時の人々の誰もがその物語や歌を

知っている普遍性があつて成立する「本歌取り」のようなものでした（谷知子『和歌文学の基礎知識』角川ソフィア文庫、二〇〇六）。

同じ光琳の「燕子花図屏風」（根津美術館収蔵・国宝）も同様の「留守模様」の技法をとっていますが、こちらは八橋さえも描かず、かきつばたのみが描かれています。かきつばたの花だけで『伊勢物語』をイメージできる江戸時代の人々の美意識に脱帽してしまします。

ここにも注目！



『伊勢物語』が江戸時代の人々にとって皆で楽しむ古典作品だったことは、たくさんさんのパロディが生まれたことから分かります。例えば江戸時代初期に成立した『仁勢物語』は、原文を徹底的にもじり、滑稽な表現の物語に仕立てています。「あづま下り」に登場する三河の国八橋は三河の国「岡崎」となり、お茶の名産地として紹介されます。川柳では「業平も骨を折句のかきつばた」などと詠まれ、技巧的な「から衣」の歌を詠むのに業平も苦労したことを駄洒落にして楽しんでいました。

詩の教室へようこそ

和合亮一

第二回 おせ、もつと、おせ。

＊詩は敷居が高い？

前回でも少しお話をいたしましたでしたが、「詩」となると、やはり少し敷居が高いかもしれませんよね。ヨーロッパ、アジア、アメリカ…。海外へと出かけて、様々な国の詩人たちとお会いする機会がこれまでにありました。いろいろな出会いを重ねていく中で比べてみると、日本以外の国々ではそれがかなり低いように感じます。

例えばある国の詩人と初めて知り合った時に、素敵な絵があらわれた大きいサイズのカードにメッセージが書かれているものを渡されたことがあります。これはと尋ねてみると、昨日出来上がった短い詩を、今日お会いする人たちにプレゼントするため、手書きしたものだと言ってくれました。

こうちよう先生のがきがきこえる。
こうていの、まるでひよう。
まい日、
こうちよう先生と、
すもうのれんしゅう。
夏休みの日も、朝一番に、
こうちよう先生がまつている。

当時小学校三年生だった、大和田千聖君の書いた「ちさと、おせ。もつとおせ。」という作品。微笑ましくユニークな情景が浮かんできます。夏休みの朝稽古の相手は校長先生。「おせ」というリフレインに躍動が感じられる作品です。

いよいよ初めての大会に出場することになりました。

こうちよう先生の、
いつもののがきがきこえる。
ちさと、おせ
もつと、おせのこえ。
力がどんどんわいてくる。
じしんがわいてくる。
おして、

ちょっとした言葉の贈り物として、詩が毎日のように書かれているんですねと感じると、私たちの間では当たり前のことですよ…。と。いいなあ。うらやましくなりました。

また別の国では、やはり知り合ったばかりの詩人が、手のひらを出してというのでその通りにしてみると、ちょこんと小さな袋を載せてくれました。後で静かに中を見てみると、白くて可愛らしい流木が入っていて、そこに詩が書かれていました。名前と出会った日付と自作の詩。心が温かくなりました。旅の記念として今も玄関に飾っています。

私はこんなふうに誰かに、例えば親しい人にちょっとした贈り物をするみたいにして、言葉をやりとりできるといいなあという

おして、
おしまくった。
はじめてのすもうで三回。

何と初めての大会で三位。その嬉しさを、最後にこんなふうに書いてまとめています。

なんでも がんばれる。
なんにでも、がんばれる。
こうちよう先生のがき、
まほうの力をもつこえだ。

校長先生の声に励まされて、千聖君はどんなに辛くても前に向かっていくことができたのでしょうね。ここに先生と子どもさんの練習の日々と、それにより培われた強い絆のようなものが見えてきます。

とてもシンプルな表現であったとしてもそこに子どもさんの気持ちが深く宿っているなら、詩は後からやってくる。そんなふうに残った時に思いました。「ちさと、おせ」という言葉には、読んでいる私たちをも励まして先へと導いてくれるかのような明かりのようなものが感じられます。

つも懂れています。

そんな雰囲気は授業の中でも作り出していききたいですね。

＊子どもの詩という「贈り物」

私は子どもたちの詩と出会う機会を数多くいただいていたいました。いつもとびきりの「贈り物」をもらっているように思います。目頭が熱くなることが良くあります。少しだけご紹介させていただきます。

ちさと、おせ。もつとおせ。
ちさと、おせ。
もつと、おせ。
まわしもつて、おせ。
こしおろして、おせ。

言葉をたとえ多く使わなくても、その後には豊かなイメージが広がっていれば、心が動かされる。私は子どもさんたちの詩からそれを学んでいます。

＊「まほう」の言葉との出会い

次に紹介する詩は、当時小学校一年生のさとうりゅうのすけくんが、東日本大震災の折に、津波で家も町もその全てが流されてしまつて、毎晩のようにそれを思つて泣いている祖母を励まそうと思つて、記憶にある元の町の風景（かつての宮城県志津川町・現南三陸町）を懸命に絵に描いたり、詩に書いたりしたのでそうです。

これは生まれて初めて書いた「まほうのつなみ」という詩です。

まほうのつなみ
こわれたおうちはおもどおり
ガソリンスタンドも
びょういんも
このえができたら
おばあちゃんに

福島県立本宮高等学校教諭。第一詩集にて、中原中也賞、第四詩集にて晩翠賞受賞。二〇一一年の東日本大震災で被災した際、Twitterで「詩の礫」を発表し話題に。詩集となり、フランスにて詩集賞受賞（日本人初）。二〇一九年、詩集『QQ』で萩原明太郎賞受賞。校歌・合唱曲作詞多数。

みせるよ
もとにもどった
しずがわの え

おばあちゃん
げんきをだしてね
いつかきつと
いいつなみがやってきて
もとのまちになるから
まほうのつなみで
もとのしずがわに
もどるから

ありったけの思いで励まそうとしている
姿に胸を打たれ、そして心を衝かれた思い
がしました。「いいつなみ」や「まほうのつ
なみ」という言葉にはっとさせられたので
す。

震災直後は誰もが打ちひしがれて、「海」
や「津波」という単語に底知れない恐ろし
さを感じていました。しかしさとうくんは
人を感じる一心得、新しい言葉の明かりを見
つけているのです。読み返すほどにこの詩
のフレーズの背中に、たくさんの方々の無

の後藤ゆうさんの詩。

下手くそでいいから
世間体や周りの評価など
気にせずに
思うままに
創れ
パワフルであれ
考え抜くのだ
私は存在する
私の哲学で私は生きる

そうです、その若々しいエネルギーを私
は待っています。投稿欄にふさわしい作品。
まずは気にせずに思うがまま創る気持ちで、
筆を走らせてみて下さい。考えるために、
書いてみる。書いているうちに、考えがま
た新しい考えを連れてきます。
次は、高知県の関谷朋子さんの詩です。

わたしが男に生まれていたら
わたしが男に生まれていたらなら
猫を一匹飼って

念の涙と祈りの念を強く感じます。
中学校一年生の小川倫花さんの「おもも
り」という詩をご紹介します。最後の
別れを書き留めています。

おももり
病室の窓から 見えた寒空
「好きな物を買ってね。」
ひいおばあちゃんが 横になったまま
細く白い手を差しのべて
渡してくれたおこづかい
何だか気まずくて
いつもみたいに気軽にもらえなかった
「いいから いいから。」
最後にもらった五千円札
ひいおばあちゃんとの思い出が
よみがえるお札
今までも これからも
さいふの中で
ずっと私を守ってくれる おまもり

先に紹介した二つの詩にも登場した「ま

女の名前をつけるだろう
始まったばかりの夜
仕事から帰ってきた時に
わたしだけに頼って欲しいと願うだ
ろう
完全体で
約束ができる人になりたいと思う
そのほうが
役に立つから
知らないひとから緊急のメールが来
ても
今約束を守っていますと、追い返せ
るから
わたしが男に生まれたら
きつと後悔するだろう
強い強いと褒められて
守りたいと言えなくて
猫を一匹飼ってしまいうから
一人ですって言えなくて

最初の一節「わたしが男に生まれていた
なら／猫を一匹飼って／女の名前をつける
だろう」にとっても惹きこまれました。なん
だか、とてもやさ我慢していて、それでも

ほう」の何かが、この詩にも込められてあ
るかのように感じました。これから先もず
っと小川さんのお守りは心にあり続けるの
でしょう。

大切な家族の死を経験して、一歩ずつ成
長していくこうとする姿も見えてきます。

＊大切な誰かへの手紙のように

詩の中に映じられている、成長感覚こそ
を味わいたい、そして分かち合いたい。
作者自身が自分の言葉で現在進行形であ
る今と向き合い、少しもごまかさずに鋭く
何かをとらえようとした時に、一篇が書き
あげられた瞬間がたとえ何歳であろうとも
全ての世代へと訴える力と読み手を人生の
先へと導こうとする言葉の灯火が内在する
のだということを、みなさんにあらためて
お伝えしたいのです。

先生へ、あるいは家族へ。詩とは例える
なら大切な誰かに宛てた手紙のようなもの
です。そんな思いで、まずは親しく語りか
けるようにして一節を書き始めてみることを
促してみると良いと思っています。

投稿作品が集まり出しています。千葉県

強く生きていこうとしている姿が見えてき
ました。無理して強がったり本当は弱虫だ
ったり、不思議な心の世界が描かれていま
す。
引き続き、みなさんの作品をお待ちいた
しておりますね。

＊地球をめぐる言葉と詩

さて冒頭の話に少しだけ戻ります。
世界各国の詩人たちと旅の空で語り合っ
て、当たり前ですがあらゆる国にはあらゆ
る言葉があって、そして必ず詩人がいると
いうことをあらためて実感いたしました。
そしてこんなふうに見えました。いろい
ろな数居がどんどん低くなって、たくさん
の言葉と詩とが、地球をいつもぐるぐると
めぐっているような未来を。

詩の作品大募集！

本連載では、高校生の詩の作品を募集いたしま
す。応募作品の中から和合先生に選んでいただ
いたものを誌面に紹介していきます。奮っ
てご応募ください！（募集要項は64頁）

青山あり！

中国祠墓紀行

[WEB国語教室]運動

第四回

印山越国王陵

(浙江省紹興市)

文と写真

平井 徹

慶應義塾大学講師 (中国文学)



◆DATA

人物：允常 (?-B.C496)。春秋時代の越国の王。
『吳越春秋』には元常とある。
勾踐 (?-B.C465)。允常の子。春秋五覇の一人にも数えられる。勾踐とも表記する。
墓所：浙江省紹興市蘭亭里木柵西南、市街から西13km
アクセス：東京から ▶ 3h 上海 ▶ 高速鉄道 1.5h 紹興
あわせて行きたい：大禹陵(だいりゅう)(浙江省紹興市)、西施故里(浙江省諸暨(しよき)市)

浙江省紹興市は、春秋時代の越国の都であるとともに、文豪魯迅の故里でもある。魯迅はいう。「勾踐の遺跡は今も変わらず存在しているが、郷里の男女は斜めに見て通り過ぎ、顧みようとしない」(『会稽郡故書雜集』序文)と。二十世紀も間もなく終わろうという一九九八年、人々の耳目を惹く大規模な考古学的発掘調査が行われた。「印山越国王陵」は紹興市内から西へ約十三キロ、書家王羲之にまつわる名勝「蘭亭」から二・五キロほどのところにある。印山は印壘の形に似るところから命名された俗称で、歴史的には木客山と呼ばれる。『越絶書』『吳越春秋』には、

いずれも勾踐の父允常を木客山に葬り、「木客大家」を築いたと記す。王陵は「甲字形」で、地下墓道の長さは五十四メートル、つきあたりに三角形の木組みの墓室(前室・中室・後室に三分割される)が設けられていた。現在、発掘現場を覆うかたちで博物館が建設され、一般公開されている。二〇一二年の再訪時には、見学通路が新たに整備されていた。ちなみに、現時点で越王の墓と確認されているのはここだけであるが、二〇一九年、浙江省湖州市安吉県で越の王侯級陵墓が見つかったとの報道があり、今後の展開が注目される。

同じ紹興市街の西、臥龍山南麓には、勾踐にまつわる遺跡「越王台」があり、吳越の興亡(日本の軍記文学『太平記』にもそっくり収められている)で知られる勾踐の宮殿跡と伝えられる。この地は春秋時代に越国の王城があったところで、『越絶書』には具体的数字を列挙しつつ、その豪壮さを強調している。南宋の嘉定十五年(三三三)、この地の地方長官によって大規模に整備され、山上に築かれた楼閣や亭の総数は七十二にもなったという。現在、域内に鬱蒼と茂る柏(常緑樹のコノテガシワ)の中には、この時期に植えられた古木も多い。

現在、この一帯は府山公園として整備されている。府山の名は、かつて紹興府の官衙がこの山の東麓にあったこと

に由来する。南の大門から入って、急な石段の坂道を登っていくと、公園の中心部に位置する越王殿にたどり着く。現在の建物は、一九八一年に再建されたもの。園内には、勾踐の名臣として范蠡と並び称される大夫文種(はんしゆ)の墓(勾踐に死を命じられた後、この山に葬られたことから、種山とも称する)、北宋期に知州(州長官)として赴任した文学者、范仲淹(ちやうえん)の文章にちなんだ清白堂などが点在する。勾踐が肝を嘗めて「会稽の恥」を雪ぐことを誓ったのはこの場所であり、この一帯と古代日本(倭)が海上を通じて往来があったことを想像するのも楽しく、同時に、李白の名詩「越中覽古」を思い浮かべ、在りし日の勾踐の栄華を偲んだのだった。



▲印山越国王陵博物館内の越王允常の墓室。(2006年撮影)



▲越王殿に掲げられていた、勾踐の事績を描いた壁画(2012年撮影)



▲越王勾踐を祀る越王殿は、越王台の中心部にあ(2012年撮影)

「逆切れ」の理由はとんだ「逆恨み」

関根 健一
せきね けんいち

●日本新聞協会用語専門委員。元読売新聞東京本社編集委員。文化審議会国語分科会委員。大東文化大学非常勤講師。著書に『なぜなに日本語』『ちびまる子ちゃんの敬語教室』（集英社）など。『明鏡国語辞典 第三版』編集・執筆協力者。

「今日の数学の試験、準備してきた？」「えっ？うそ！逆に試験があるの忘れてた」「まあ、お前、数学得意だからな」「うん、好きなんだよ。逆に国語は苦手だけど」「なあ、さっきから、『逆に』『逆に』って言うてるけど、全然、逆じゃないんじゃない？」「えっ、そうかな。逆に、『逆に』の使い方がおかしいってこと？」「やっぱり、全然、『逆』じゃないよ」。

*

「逆に」は、「勉強したのに、逆に成績が下がってしまった」のように、物事が予想や期待とは逆の方向に進むときに用いるものです。ところが、「逆に」というから、どんな話になるのかと思っ

と聞かれ、試験があること自体を忘れていたと答えるのは質問への真つすぐな返答にはなっていないという意識から、「逆に」を付けたくないのでしようか。「数学が得意」と「国語が苦手」は、内容は対照的かもしれませんが、予想に反する展開ではありません。「逆に」の使い方がおかしい」は、相手の発言を言い直して確認しているだけです。それぞれ「それどころか」「その代わり」「言い換えれば」などと言うべきでしょう。

*

次の「逆」の使い方はどうでしょうか？

「数学の試験、さっぱり解けなかったから、先生の似顔絵を描いたんだ。そしたら、放課後、職員室に呼ばれてさ。ねちねちお説教されて、適当に相づち打ってたら、逆切れされて、怒鳴るん

だもの。まいったぜ」「そりやお前がよくないや」

*

「逆切れ」は、怒っている人に対して、怒られている方が突然、怒り出すことをいいます。怒るべきでない、その資格がない人が切れるのをいぶかる気持ちを「逆」が示しています。

不真面目な生徒を先生が怒るのは自然な感情の現れです。それまで冷静に話していた先生が、生徒の態度に腹を据えかね、我慢できなくなり、怒りを露わにするのは「逆切れ」ではありません。

*

用法が広がっているのが「逆恨み」です。『明鏡国語辞典』では、三つの語釈を載せています。

まず、「①恨みに思う人から逆に恨まれること。また、その恨み」。道を歩いていて、飲酒運転の車にはねられたら、歩行者はドライバーに対して「恨み」を抱きます。逆に、ドライバーが歩行者に対して恨みの感情をもって臨んだとしたら、それは「逆恨み」ということになるわけです。次に、「②人の好意を悪くとして、逆に恨むこと」。「先生が怒ったのはお前のことを思ったからこそだ。

逆恨みなんかするなよ」のような使い方です。

①は自分が恨まれるべきなのに逆に恨む、②は感謝すべきなのに逆に恨む——という意味で「逆」のベクトルが発生しているわけです。

もう一つは、「③筋違いなことを理由に恨むこと」。新用法を示す「新」マーク付きで、「解雇を逆恨みして放火する」の用例を付しています。最近特に見聞きする言い方ですが、①②のように、何と何とが「逆」なのか、はつきりしません。筋の通らない恨みだという違和感、理不尽さが、「逆」の一文字に投影しているのでしょうか。

*

犯罪の場合、加害者は被害者に「恨み」を持つからこそ、加害行為に及ぶともいえます。「恨み」なら情状酌量の余地はありますが、「逆恨み」とすると加害者への批判的なニュアンスが生じます。前後の事情や当事者の本当の心情が正確に分からないと、「逆」であると断定はできません。

それは本当に「逆」なのか？ 何に対して「逆」なのか？ その「逆」は逆に逆ではないか？ 「逆」は慎重に使いたいものです。

「サ変」も「ラ変」も変じやない！

紫式部にファンレターを書こう④

おおくら ひろし
大倉 浩
筑波大学教授

課題

次の文章を、紫式部がわかるように書き換えよう。

あなたの書いた物語の「きりつぽ」を読みました。死んでしまう桐壺更衣がとてもかわいそうでした。

前回の検討で、「死ぬ」という「ナ行変格活用動詞」について考えました。「ナ変」といっても不規則活用をしているわけではなく、四段と上二段を兼任する特別な活用であることを述べ、助動詞「ぬ」との関係にもふれました。今回はその流れで課題は一休みして、他の変格活用を見てみましょう。

兼任という見方をすると、「サ行変格活用」は
せ し す する すれ せよ

という活用変化ですから、連用形以外は下二段で活用しています。また、見方によっては未然形・命令形以外は上二段活用とも捉えることもできます。そこで、サ行に活用する古語動詞を調べてみると、四段と下二段はあるのですが、上二段活用の動詞がありません。つまり、中途半端な「サ変」活用があるために上二段活用が育たなかったと考えることもできそうなのです。サ変動詞は「す」「おはす」だけでなく、「具す」「物語す」「念ず」「御覧す」など漢語と結びついて多くの動詞が存在しています。それらは、他の行でいえば上二段活用にあたる動詞活用グループだったとはいえないでしょうか。決して異質な動詞グループではなかったのです。

また、「ラ行変格活用」は
(あゝ) ら り りる れ れ

という活用変化ですから、終止形以外は四段活用です。ラ行に活用する動詞は四段・上二段・下二段と揃っていますから、ラ変が何かの規則活用を兼任しているわけではないようです。そこで、改めて四段活用との違いを考えてみると、終止形が「あり」、イ段だということ。ラ変以外の動詞は全て終止形がウ段ですから、これは大きな違いです。では終止形がイ段になる用言はあるでしょうか？ そうです、形容詞は「し」、形容動詞は「なり・たり」、いずれも終止形はイ段です。形容動詞についていえば、もともと「静かに・あり」「堂々と・あり」に由来するので当たり前かもしれないですが、形容詞と共通点があるというのが気になるのです。

改めてラ行変格活用動詞を眺めてみると、「あり」以外の三語も「をり(ゐ・あり)」「はべり(はひ・あり)」「いますがり(います・か・あり)」と「あり」が隠れています。そして、これらの動詞の意味は、「(主体が)存在している」ということで、他の多くの動詞が表すような、目に見える「動作・変化」とは大きく違うことがわかります。英語でも、存在を意味する動詞、be動詞は、格変化があったりと他の動詞と

は文法的なふるまいが大きく違うことをご存じだと思います。単純に比較はできませんが、日本語の文法の歴史の中でも、このラ変の「あり」は様々な働きを持ち、多くの助動詞とも関わりを持つ、とても大きな存在なのです。

さらに形容詞の意味からも考えてみましょう。「赤し・暗し・うつくし・にくし・をかし……」これら形容詞は「動作・変化」ではなく、物事の「状態」や人間の「情意」を意味しています。ラ変の「あり」が表す「存在している」という意味と近いことがわかります。つまり、ラ行変格活用動詞は動詞と形容詞の境目の意味を持っているので、活用にも、終止形がイ段であるという形容詞的な特徴が混じっていると考えるはどうでしょうか。

今回サ変・ラ変について述べてきたことは、奈良時代以前、残された文献資料からは論証できない時代にかかわる日本語動詞についての推測に過ぎません。けれども、こうした推測によって、皆さんの古語動詞活用の見方が変わったり、なんだか面白くなったりすることが大事だと私は思います。



古典文法に関するご質問をお寄せください。

→大修館 HP 内「WEB 国語教室」からもお送りいただけます。

<https://www.taishukan.co.jp/kokugo/media/>

北原保雄 編

明鏡国語辞典 第三版



B 6判・上製・函入・
一九二二ページ・二色刷
定価 三三〇〇円 (税込)

評者 中楠 玲

初版から愛用している『明鏡』の最新版が刊行された。多くの魅力がある辞書だが、ここではその一部を紹介したい。

まずは誤用情報。『明鏡』には言葉の使い方、第三版でも解説が追加された。たとえば「爪痕」の項目では、最近よく耳にする「爪痕を残せるよう頑張りたい」のような言い方が「本来は誤り」であると解説している。誤用などからも引ける、巻末の索引とあわせて活用すれば、中高生の語彙学習にも大いに役立つだろう。

また、第三版で新たに加わった「品格」欄も興味深い。たとえば「だんだん」の「品格」欄を見ると、「次第に」「徐々に」「漸次」「漸を追って」が挙げられている。手紙や論文を書くときなどに、改まった言い方を探すのに役立ちそう。後ろの表紙をめくったところには、「品格」欄一覧も収録されている。ぜひ多くのの人に使ってほしい、「推し辞書」である（なお、「推し」も新項目として加わっている）。

半田淳子 編著

国際バカロレア教員になるために

TOKとDP6教科の学びと授業づくり



A 5判・並製・二〇八ページ
定価 二五三〇円 (税込)

評者 荒木 信

本書は、『国語教師のための国際バカロレア入門』の姉妹編として、同編著者によって企画・刊行されたものである。前者が、『国際バカロレア（IB）』の「国語」にあたる「言語A」に特化した内容であったのに対し、今回は、IBの高校段階であるDPの全6教科と、TOK（知の理論）について紹介している。

対話型、探究型といった印象のあるIB教育であるが、各教科の紹介をおして大きな特徴だと感じたのは、最終試験の存在である。どの教科も最終試験

を見据え、そこから逆算してカリキュラムを組み立てている。そういうと、受験対策に終始する授業を思い浮かべるかもしれないが、最終試験は、口述試験や小論文作成を含むものであり、授業は自然と対話的、探究的なものとなっている。この点、改革の進む日本の入試を考える上でも示唆に富むものがある。

本書には、IB教員養成大学の紹介や、現役IB教員からのメッセージなども収録されている。IB教員を目指す方にとって、必携の一冊といえよう。

アンドレア・モロ 著／今井邦彦 訳

ことばをめぐる17の視点

人間言語は「雪の結晶」である



四六判・並製・一四四ページ
定価 一八七〇円 (税込)

評者 本間隆雄

語られるのは興味深い。

本書は17章立てで、プラトンやチョムスキーといった哲学者や言語学者などの言葉を引用しながら、古代ギリシアから現代までの言語研究の歴史をひも解くものである。

原著者のアンドレア・モロは生物学者で、生成文法の立場から言語について解説している。現在の生成文法は生物学的な観点からの言語研究が盛んになっているので、生物学者が生成文法を語るのはいくらでもありうることはあるが、それでも言語研究を中心とはしていない学者によって

原著者のアンドレア・モロは生物学者で、生成文法の立場から言語について解説している。現在の生成文法は生物学的な観点からの言語研究が盛んになっているので、生物学者が生成文法を語るのはいくらでもありうることはあるが、それでも言語研究を中心とはしていない学者によって

最後に、本書は各章を写真とし、本全体をアルバムにたとえている。こうした趣向は原著者の人となりが見えて、面白い。

奥原 剛 著

実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション

人を動かす10原則



A 5判・並製・一九四ページ
定価 二二〇〇円 (税込)

評者 八木 環

行動をなかなか変えられないこともあれば、それまでとは違う行動を選ぶこともある。それは、いったい何によるのだろうか。

本書は、保健・医療の現場で注目を集めている「行動変容につながる情報の伝え方」について、わかりやすく解説し、実践のコツを楽しく伝えている。

注目したいのは、本書の中心を成す「人を動かす10原則」である。この原則は、著者が社会学、心理学、教育心理学、行動経済学、公衆衛生学等の多くの研究と実践から導き出された知見を

整理することで誕生した。人の興味を引き、わかりやすく伝え、考え方を変化させ、記憶に刻みつけて行動をとってもらうためには、「何を」「どう」伝えたらよいかを具体的に示しており、その活用範囲は、決して保健・医療の現場だけではない。

対面でのコミュニケーションが難しい今、紙媒体やウェブサイト等でも活用できる。本書にも、大学や小学校でのエピソードが登場するが、生徒に何か情報を伝えるとき、授業の展開のヒントとしてもお薦めしたい。

2020.9~2021.2

国語の

News & Topics

国語・教育に関わる情報と
授業に役立つ話題を集めました。

国語に関する世論調査

文化庁は9月25日、2019年度の「国語に関する世論調査」の結果を公表した。
「日本語が乱れていると思う」者は66・1%で、回ごとにその割合は減少している。
日本に住んでいる外国人に対して、災害や行政に関する情報などを、やさしい日本語でわかりやすく伝えようという取り組みについての問いに対しては「知っている」が29・6%、「知らない」が68・1%だった。
(https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/92531901.html)

教育行政関係

- GIGA スクール構想の端末調達進捗状況 (10/30)
- 高等学校卒業（予定）者の就職（内定）状況に関する調査公表。就職希望者は昨年より11.2%減 (1/15)
- 令和3年度大学入学共通テスト実施 (1/16、17)
- 中教審が『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』を答申 (1/26)

国語関係・時事

- 国語に関する世論調査結果公表 (9/25)
- 立皇嗣の礼 (11/8)
- 野口聡一宇宙飛行士らに乗せた民間宇宙船「クルードラゴン」打ち上げ成功 (11/15)
- 「はやぶさ2」のカプセル地球帰還 (12/6)
- 「今年の漢字」は「密」 (12/14)
- ユネスコ無形文化遺産に「伝統建築工場の技」(17分野)が登録決定 (12/17)
- 1都3県に緊急事態宣言。(1/8~)1/13にはさらに7府県を追加。飲食店等の短縮営業が柱で休校は要請せず (1/13)
- 芥川賞は『推し、燃ゆ』(宇佐見りん)、直木賞は『心(うら)淋し川』(西條奈加)が受賞。(1/20)
- 新型コロナウイルスワクチン(ファイザー社製)の国内承認 (2/14)

GIGAスクール構想のための端末調達状況

文科省が8月末時点のGIGAスクール構想の実現にむけた自治体の端末調達状況を調査した。それによると、端末の納品は、8月末までに2%、年内に27%、年度内に71%の自治体が完了するとの回答。
(https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_00921.html)

令和3年度大学入学共通テスト実施
2021年1月16、17日の二日間、初め

ての大学入学共通テストが実施された。

志願者は53万5245人で、昨年のセンター試験より2万2454人減。実際の受験者は48万4114人(追・再試験含)で前年より4万2958人減、受験率は90・5%だった。

1/16、17の本試験受験者は48万2088人。1/30、31日は、高校生のみ本試験志願可能であり、受験者は536人。追試験、再試験を受けた者は1489人(16、17日の本試験に加えて受けた者も含む。昨年の追・再試験者は239名)。2/13、14の特例追試験の受験者は1名だった。

国語の平均点は117・51点(200点満点。前年より1・82点低下)、教科選択率は94・8%。得点調整は、公民、理科②で行われた。得点調整は共通一次、センター試験を通じて、今回4度目であった。

※コロナの影響

16、17日の試験において、新型コロナウイルスに感染して受験できず、追試験が認められた者は92名だった。今年のテストは、要件(PCR検査陰性で無症状など)を満たせば濃厚接触者の受験も可能。しかし、要

件を満たさず追試験となった受験者は132名いた。(https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouthou/3.html)

中教審『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』を答申

中央教育審議会は1月26日、『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』を答申した。この答申では、①小学校高学年で教

研究会・展覧会など

※新型コロナウイルス感染症に関連して、開催の延期、中止、オンライン開催への変更などの可能性があります。学会・研究会HPをご確認ください。

日本方言研究会 第112回研究発表会

[日時] 2021年5月28日(土)
[場所] オンラインにて開催
[問合せ] <http://dialectology-jp.org/>

日本語学会2021年度春季大会

[日時] 2021年5月15日(土)・16日(日)
[場所] オンラインにて開催
[問合せ] <https://www.jpling.gr.jp/>

全国漢文教育学会 第36回大会

[日時] 2021年6月26日(土)・27日(日)
[場所] 若手大学(詳細未定)
[問合せ] <http://www.zenkankyo.gr.jp/>

国宝 鳥獣戯画のふし

[会期] 2021年4月13日~5月30日
[場所] 東京国立博物館 平成館
[問合せ] <https://chojugiga2020.exhibit.jp/>

教科書のなかの文学／教室のそと文学／夏目漱石「浮城」の時代

[会期] 2021年6月26日~6月18日
[場所] 日本近代文学館
[問合せ] <https://www.bungakukan.or.jp/>

札幌で十年、名古屋で約二年勤めて、大阪に三年前に戻って参りました。久しぶりに大阪の学校に訪問すると、事務室の前で大修館さんと声を掛けられました。十二年振りにお会いしたのに覚えて下さっていて、本当に嬉しかったです。その後も他教科の先生にも声を掛けて頂き、営業には何気ない会話も大事なのかなと思う次第です。まだしばらくはマスク越しで表情が見えづらくなりますが、いつも笑顔で先生方と接していければと思います。国語教室115号が刊行される春には新型コロナウィルスが落ち着き、夏には明るい話題としてオリンピック、パラリンピックが開催されることを祈念いたします。

大阪支店 河内孝治



「コロナ禍」昨年から聞かない日はないくらい定着した言葉。誰もが初めての経験に試行錯誤する日々を過ごすことになりました。新しい生活様式に戸惑い、前向きな気持ちを維持することが難しかったです。行政・仕事や産業・教育、生活スタイルなどにも多数変化が生じました。在宅の過ごし方にも変化がありました。本を読む習慣は元々あったのですが、他国の小説家には無縁でした。しかし一人の小説家に夢中になりました。前向きになれる名言や格言を残したヘミングウェイです。「武器よさらば」「橋のたもとの老人」に感動しました。夢中で読んだ言葉というのは、いつまでも頭に残ると私は思います。

福岡支店 出口博之



「国語総合」が「現代の国語」と「言語文化」になるんですよ。……え？国語総合なくなるんですか？

二年前の入社直後、国語の部署に配属され、最初の面談で告げられた衝撃の事実。外国語専攻だった私にとって、国語科の大変革は寝耳に水でした。

評論を読んでいくと頭がぼうつとす。古典のテストはほぼ雰囲気で解答してしまふ……小説を読むのは好きでしたが、国語が苦手な高校生の典型でした。そんな自分が、国語教科書の大改訂に関わることになるとは。

音楽などのカルチャーに関する文章なら読みやすいかな。古典が苦手でも面白さを味わえるといいな。グループ活動も楽しい題材なら盛り上がりそう。あまり得意ではなかったから、「こんな国語だったらいいな」という思いを反映したくて、奔走してきたつもりです。大修館の「現代の国語」「言語文化」には、たくさんの方が関わり、多彩な工夫が盛り込まれています。国語が苦手な高校生も、きっと国語が好きになる。そんな四冊になりました。(原)

詩の作品、大募集！

詩人の和合亮一先生による連載「詩の教室へようこそ」では、高校生による詩の創作作品を募集いたします。お寄せいただいた作品は、和合先生に選んでいただき、優れたものを連載の中でご紹介いたします。作品が掲載された方には、大修館オリジナルグッズをプレゼント！

「大修館書店『国語教室』係」まで、奮って応募ください。

国語教室 第115号
2021年4月15日発行

編集室 国語教室編集室
発行人 鈴木一行
印刷所 広研印刷株式会社
発行所 株式会社大修館書店
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1
電話 03(3868)2651(販売部) 03(3868)2291(編集部)

出版情報 <https://www.taishukan.co.jp>